

# CONTENTS

## 目次

ごあいさつ 学長メッセージ	2
サービスイノベーションセンター(SIC)	4
産学官・地域の連携事業の事例紹介	6
研究機関としての学部の特徴	8
研究シーズ2023 研究シーズの見方	9

### 企業・経営支援

浅石 梨沙	新製品・サービス開発の原価計算・管理会計	10
岩瀬 忠篤	経済社会の長期展望と地域デザイン（人口とイノベーション）	11
金澤 良昭	マーケティング・コミュニケーション	11
甘泉 瑞応	サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム	12
黒崎 宗宏	実務・コンサルティング経験での知見の理論化研究	12
小玉 武生	小売業の競争戦略	13
高瀬 浩	顧客経験価値とマーケティング・デザインの研究	13
野口 佳一	時空間データの可視化やシミュレーション	14
馬場 哲也	ホテル事業の経営と運営の分離、ホテル資産の評価	14
藤野 洋	中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGsの研究	15
松澤 祐介	金融論 交通経済学 地域研究（ヨーロッパ）	15

### 医療・福祉専門職支援

井上 寛隆	小児看護学教育及びコロナ禍の子育て支援に関する研究	16
岡田 信子	多職種・多部門連携における看護師の役割に関する研究	17
影山 優子	介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する	17
神庭 純子	現代に活かすナイチンゲール看護論	18
小松 妙子	在宅看護・訪問看護の発展	18
坂田 徳生	プレパレーション・処置後の遊びへの看護介入	19
佐藤 智子	基礎看護技術の学習と看護観の形成に関する支援	19
佐藤 直子	組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験 -病棟再編に焦点をあてて-	20
鈴木 浩美	外国人医療人材への支援プログラムの構築 -外国人技能実習制度の活用に向けて-	20
関根 みぎわ	周手術期看護に関する研究、がん患者・家族支援の検討	21
大工原 慈仁	男性看護師のGSEに影響を及ぼす要因とキャリア形成	21
中澤 美弥	潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討	22
原田 瞳	精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス	22
山田 秀樹	頭の働かせ方を理論的に解き明かして、課題解決を図る	23

## 教育・スポーツ・生涯学習

加藤 三彦	スポーツマインドを育成する	24
金子 章予	高等教育の哲学と実践方法—教養教育、市民性教育、生命倫理教育を中心として—	25
鈴木 政浩	英語授業学研究（学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化）、 4技能の連動性と英語運用能力向上	25
瀬沼 文彰	現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究	26
宮島 健次	ホスピタリティ教育—AI時代に生き残る人とは—	26

## 観光・まちづくり

菅原 育子	長寿時代を生きる私たちの社会とのつながりと暮らし	27
田辺 忠史	地域社会における異文化共在	28
富樫 文予	ホテルのハード・ソフト・ヒューマン	28
徳田 行延	産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する	29
中谷 勇介	産業連関表を用いた地域経済の課題解決	29
波瀆 郁代	観光マーケティング、旅行者行動と新型コロナウイルスの観光への影響	30
服部 映里	持続可能な地方行政とまちづくり	30
服部 裕美子	観光インフラとしてのホスピタリティ&マナー教育の普及	31
望月 政志	地域資源を活用した地域振興に関する研究	31

## 子育て・障害者支援

石川 幸代	精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について	32
大賀 明子	父親と育児に関する研究、産後ケアに関する研究	33
奥山 陽子	高齢難聴患者を支援するためのピアサポート研修の開発	33
笠井 翔太	精神面の困難に直面した人への対話的支援	34
柏木 由美	母乳育児を中心とした歴史的変遷に関する研究	34
川口 真実	障害福祉事業所における人事考課の課題について	35
長坂 桂子	高度実践看護の追究	35
茂手木 明美	子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康	36

## 健康づくり

伊藤 千春	労働者のストレスマネジメント、レジリエンス向上	37
尾崎 美恵子	健康の視点から誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える	38
齊藤 美恵	「生活世界に導かれたケア」の可能性	38
霜山 薫	人々の健康を支える健康診査、保健指導について	39
高橋 幸子	社会における将来を見据えた専門職（看護師）の活用	39
藤本 千尋	成人期における全人的看護の研究	40

産学官連携の推進	42
共同研究等の推進／お問い合わせ先	43
INDEX 研究シーズ名前検索	44



# 西武文理大学は

## 地域への貢献に

## さらに邁進します

— 創立25周年を視野に入れながら —

西武文理大学 学長  
やまき かずひこ  
八巻 和彦

皆様ご承知のように、本学は2019年に創立20周年を記念してサービスイノベーションセンター（SIC）を開設し、産官学連携において幅広い活動を展開しております。

それに先立つ、2016年には、狭山市との連携に関する基本協定を締結して、本学のサービス経営学部と看護学部の力とリソースをもって、狭山市におけるさまざまな分野と場面で協力させていただいてきております。

さらに2021年には埼玉県物産観光協会と包括連携協定を締結させていただきました。埼玉県内には数多くの大学が存在するなかで、本学を最初の産学連携協定のカウンターパート（相手方）として同協会が選んでくださったことは、大変にありがたいことと、全学をあげて受け止めました。このことによって本学の地域貢献へのモチベーション・意欲はさらに高まっています。

実際に、2023年3月15日には埼玉県物産観光協会の共催をいただいてウェスタ川越において「第三回西武文理大学サービスイノベーションフォーラム『物産観光による地域振興』」を成功裏に開催いたしました。

また、既に基本協定を結んでいる長野県の飯山市及び信州いいやま観光局、フジすまいるファームとは、現地での交流事業や本学学園祭での観光物産展などを実施してきております。2022年度においても、飯山市内の道の駅「花の駅・千曲川」のリニューアルオープンに際しては私も含めて何人もの関係教員が参加し、また学生たちは、その道の駅でのイベントやフジすまいるファームでの農業体験などを行うプレ・スタディツアーを実施しました。さらに、この2月には本学サービス経営学部の

ゼミの一つが活動報告会を開催し、飯山市と信州いいやま観光局からもゲストとして3名のご参加をいただき、学生の活動に有意義なご意見を頂きました。

このように産官学連携が進展する中で本学は、2024年に創立25周年を迎えます。さらに、本学もその一員である文理佐藤学園は、その翌年の2025年に創立60周年を迎えます。こうしたことも踏まえて本学は、「西武文理大学」という名前が示しているとおりに、武蔵の国の西部地域に対して、研究ならびに教育においてさらに貢献することを、改めて確認させていただきます。

また、創立以来、ホスピタリティの精神をモットーとしてきており、現に英語表記においては Bunri University of Hospitality と称して、〈ホスピタリティ教育の学府〉をもって自任している本学でありますから、地域に対してできるかぎりの貢献をすることは、当然の責務と認識しています。

ところで、近年の目覚ましい科学技術の進歩は、われわれに様々な利便性をもたらしていることは、皆様、ご承知のとおりですが、しかし同時に、その負の側面も明らかになっています。一年以上にもわたってわれわれが見せつけられている、ロシアの軍事侵攻によるウクライナ破壊が如実に示しています。ウクライナの人々の暮らしが平和に営まれていた都市や村をいとも容易に破壊し、多くの無辜の人命を奪い続けるミサイルや砲弾は、ほかならぬ現代の科学技術の産物です。

そればかりか、われわれ自身が普通に暮らしていても、すでに自然を破壊しているという側面があることも、今ではよく知られています。このことへの反省に立って、2015年の国連総会においてSDGs（持続可能な開発目標）が採択されて以来、今やこのSDGsの視点を抜きにしてはほとんど何事も進めることが出来なくなっています。

上述した「サービスイノベーションフォーラム」の際にも、欧米をはじめとする先進国の観光客は、SDGsを意識して運営されている観光地を選んで訪れる傾向が顕著である、との報告がありました。

このような昨今の急激な動きに関わって、自分たちの仕事や事業をSDGsとどのように折り合いをつけたらよいものか、と悩んでおられる方々も少なくない、とお聞きしています。

本学には、この点について先駆的に研究してきている教員たちがいます。例えば、金融機関とシンクタンク等での豊富な経験をもち、この分野では埼玉県を代表する人物の一人と言える教員がいます。

その他にも、皆様のさまざまなご提案やご相談に進んでお応えする用意のある教員たちが〈ホスピタリティ教育の学府〉たる本学にはそろっています。具体的にはこの『研究シーズ集』をご参照ください。

皆様との連携活動によって、その種子から大輪の花が咲き、そして大きな実を結ぶようになることは、とても素晴らしいことです。

このような連携によって本学が地域のために貢献できるならば、それはわれわれにとって、この上ない大きな喜びです。皆様のご遠慮ないお声がけを、学長として心よりお願いする次第です。

## 経歴／学長プロフィール

1947年山梨県に生まれる。早稲田大学第一文学部哲学科を卒業した後、東京教育大学大学院修士課程を修了。引き続き同大学大学院博士課程に進み、1976年に同課程を中退して和歌山大学の教員となる。1990年に早稲田大学に移り、1992年に教授。2000年に京都大学より博士（文学）を授与される。2018年3月に早稲田大学を定年退職。この間に早稲田大学広報室長、早稲田中学高等学校校長等も務める。2018年4月に桐朋学園大学特任教授（2022年3月まで）および早稲田大学名誉教授となる。専門はヨーロッパ中世の哲学、とくに15世紀の思想家であるニコラウス・クザーヌスおよび文明論。1986年より88年までドイツのトリアー大学に研究滞在、1998年より2000年までドイツのボン大学に研究滞在。著書に、『クザーヌス 生きている中世』（ぶねうま舎2017年）、「Anregung und Übung」, (Aschendorff Verlag, Deutschland, 2017年)、『クザーヌスの思索のプリズム』（知泉書館2019年）等。

# SIC

## サービスイノベーションセンター

### サービスイノベーションセンター長ごあいさつ

サービスイノベーションセンター（SIC）は、本学が開学20周年を迎えた2019年度に開設し、今年で4年目になります。SICでは、地域の知の拠点として、研究シーズをもとにした産学官の連携や地域への貢献をその活動の柱に掲げています。そして、それぞれの教員の研究シーズを育て、プロジェクトへの展開を図るために、情報交換や学術交流、専門分野横断的な共同研究、教育活動などにも積極的に支援しています。

地域との連携活動としては、昨年度は、一般社団法人埼玉県物産観光協会のご協力のもと「サービスイノベーション・フォーラム『物産観光による地域振興』、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)と連携した公開講座「SDGsを知ろう！第2弾『私の幸せと社会の幸せを考える』「自然災害時における大学の役割について」、飯山市、信州いいやま観光局、フジすまいるファーム飯山及び本学の4者連携協定に基づく「プレスタ

ディツアー」などを実施しました。また、「総合演習Ⅰ（産学連携PBL）」や「ゼミナール」などの授業では、学生が地元企業の抱える課題を考えたり、地元の様々なイベントに積極的に参加したりしています。

この研究シーズ集は、これらの本学の教員の研究や活動を紹介したものです。研究シーズ集が地域産業における新たなイノベーションや地域活性化につながるきっかけとなれば幸いです。



サービスイノベーションセンター  
センター長  
甘泉 瑞応

### 目的

本センターは、本学の産学官連携活動を推進し、ニュービジネスの創造支援と学内外の起業家育成の取組を通じて、本学の研究の発展を図るとともに、学園並びに地域のイノベーション人材の育成に寄与することを目的としています。

### 業務

本センターでは、次に掲げる業務を行っています。

- 【1】 産学官連携事業の企画と管理運営に関すること
- 【2】 起業家の育成とニュービジネスの創造支援に関すること
- 【3】 受託研究及び共同研究の調整と契約に関すること
- 【4】 知的財産の管理に関すること
- 【5】 研究活動の広報に関すること
- 【6】 イノベーション人材育成に係る高大連携に関すること
- 【7】 その他地域連携に関すること

# サービスイノベーションセンターの活動事例

2022

01

## プレスタディツアーin長野県飯山市

このプレスタディツアーは、飯山市、信州いいやま観光局(以下「観光局」)、フジすまいるファーム飯山(以下、「すまいるファーム」)及び本学の4者連携協定に基づき、サービスイノベーションセンターの事業として実施しました。

影山ゼミ12名が参加し、日程は11月4日(金)～6日(日)の2泊3日で行われました。1日目は、借上げバスにより大学を出発し、飯山市役所において、飯山市、すまいるファーム、観光局の方からそれぞれお話いただき、2日



目は、すまいるファームでの実地体験として、飯山の伝統野菜である「坂井芋」の収穫や飯山の伝統工芸「内山紙」の手すき和紙はがき作りの体験を行いました。

そして、最終日となる3日目は、飯山市内の道の駅「花の駅千曲川」で学生が野点での抹茶の提供、狭山茶の試飲販売を実施しました。好天にも恵まれ、道の駅には多くのお客様に足を運んでいただき、盛況のうちに終了することができました。



02

## サービスイノベーションフォーラムを開催

2023年3月15日、ウェスタ川越において「物産観光による地域振興」をテーマに「西武文理大学サービスイノベーションフォーラム」を開催しました。このフォーラムは本学が主催し、2021年10月に「埼玉県の物産観光振興に関する包括連携協定」を締結した一般社団法人埼玉県物産観光協会の共催により実施したものです。

フォーラムは、第1部「基調講演」・第2部「事例報告」・第3部「活動報告」・第4部「パネルディスカッション」の4部構成で、第3部の「活動報告」ではサービス経営学部の中谷勇介教授とそのゼミ生2名が「産学連携によるゼミ活動～和(なごみ)プロジェクト～」と題して、2022年のホスピタル(学園祭)で実施したイベントの紹介とそこから得た「学び」などについて報告しました。

当日、会場には、物産観光に関連する業界や行政の関

係者など、多方面の方々の参加があり、また、YouTubeでの同時配信も行い多くの方にご視聴いただきました。



# 産学官・地域の連携事業の事例紹介

企業・経営支援

サービス経営学部 教授 甘泉 瑞応

## 企業の問題解決に学生のアイデアを生かす

本学では、産学官連携事業の一環として「総合演習Ⅰ（産学連携PBL）」という授業を行っています。この授業は、地域や企業が実際に直面している課題に対し、「グループで考え、調べ、議論し、解決策を提案する」という演習形式の授業で、地元自治体や企業の皆様にたくさんのご協力をいただきながら進めています。

昨年度の活動では、地域が抱える様々な環境問

題をSDGsの掲げる17の目標に則して議論を進め、その成果を冊子にまとめました。また、8月の「狭山市入間川七夕まつり」にてSDGsに関する我々の思いを「環境から広げよう、幸せな未来」というフレーズに込め、「やらい飾り」の作成・展示を行いました。そして3月の「狭山市・環境活動団体交流会2022」で活動成果の発表を行いました。

医療・福祉専門職支援

看護学部 教授 小松 妙子

## 教育・研究を実践につなぎ、地域の保健医療・福祉ケアの質向上へ

サービス経営学部及び看護学部では、教育や研究の成果を保健医療・福祉専門職の実践活動の質の向上に役立ててもらうため、専門職対象の公開講座や研修会の開催、地域の保健医療機関や看護協会等への講師派遣、近隣市町村の各種審議会委員としての参画を積極的に行っています。

各教員が専門性を発揮して、地域のニーズに

応じて様々な企業や訪問看護事業所等の地域活動の発展・活性化を支援しています。SDGsフォーラムの開催、看護管理者コース・看護教員養成講座・実習指導者講習会等の講師、臨床看護研究の支援、保健医療福祉職との協働研究への参画を通じて、地域の保健医療・福祉ケアの質向上に貢献しています。

教育・スポーツ・生涯学習

サービス経営学部 教授 加藤 三彦

## スポーツコミュニティセンターにおける活動

本学には、スポーツコミュニティセンター(SCC)があり、様々な目的のもと、事業・活動を行っています。特に、指定強化部(男子バスケットボール部・女子ラクロス部)の強化事業、社会貢献活動に力を入れて活動しています。

男子バスケットボール部は、現在3部リーグで2部リーグ昇格を目指しています。女子ラクロス部は、現在3部リーグ、常に上位を目指し

て奮闘中です。

社会貢献活動では、スポーツに関する教育・研究資源を活かして地域の活性化を図ろうと、学生・教員によるスポーツボランティア活動・スポーツ教室を開講しています。

本学の学生・教員が、地域の子どもたちに、スポーツの楽しさ・フェアプレイの心と行動などを教育・指導しています。

## 学生が創り出す新しい「体験」型ストーリー「サヤマ de シネマ」

今年で6年目の産学官連携映画上映会「サヤマ de シネマ」。私たちが目指すのはクラシカルな映画上映会ではない。映画はスマホで見ることのできる時代になっている。若者はデジタル世界とアナログな世界を自由に行き来しながら、デジタルで作り上げるイメージ世界と五感で感じるリアルなアナログ体験をマッチングさせながら新しい感性を紡ぎだしている。私たちがこだわるのはこ

の上映会を市民会館でやること。小さな観光地をつくり、映画でみんなが成長できる場を創ること。こうしたビジョンをもって今年も取り組んでいく。



## 子育てを支援する

思春期やプレコンセプション（妊娠前）ケアにはじまり、地域のお母さまや子育て支援にかかわる方を対象にした講演や研修会の講師や企画・監修が可能です。2022年度は、地域の子育てプレイスさんと共に、“Well Café”を開催しました。音楽や運動でリフレッシュした後、Café形式の座談会。学生ボランティアも協力し、ホッとした場になりました。狭山市の子育て支援団体との方とつなが

りながら、Well Café 活動を続けていきます。



## 安全で健康な地域づくり

本学では2022年度より全学共通科目として「災害と地域づくり」を開講しました。外部講師を国、県、市、自治会、旅館業、NPO 団体から招聘し、防災・減災・災害時の行政の役割や一般市民の活動について学修しました。フィールドワークとして、狭山市総合防災訓練の防災ワークショップで市民への啓蒙活動も体験しました。また、グループワークではサービス経営学部・看護学部の両学

生が協働して、自助力・互助力を高め災害に強い地域づくりをめざして多くの提案がなされました。





## 新たなサービスを デザインすることで 地域の発展に 貢献する



サービス経営学部 学部長 高瀬 浩

サービス経営学部は1999年4月に、日本ではじめて「サービス経営学」を研究・教育する大学として誕生し、2024年には創立25周年を迎えます。この間、日本社会も大きく変貌しました。人口減少を招く少子高齢化社会、ITの進化によって急激に進む情報社会、国境を越えて人やモノが行き交うグローバル社会、そこでは、かつての価値観だけでは通用しません。そこで、日本社会も多様性が重んじられ、働き方改革にも本腰が入れられています。

一方、人々の欲求の基本も「モノ」を中心に考えるグッズ・ドミナント・ロジックから、「サービス」を中心に考えるサービス・ドミナント・ロジックへと移行しています。今までのように単に良いものを作れば売れる時代は終わり、企業は常に顧客が求めているものをどのような形（モノやサービス）で提供すれば良いのかを考えなければなりません。つまり、提供すべきは「モノ」ではなく、顧客の期待に応えるための「モノ」と「サービス」の新たな組み合わせ（デザイン）なのです。

そこで、サービス経営学部では、「ホスピタリティ・ツーリズムコース」、「サービス・マネジメントコース」、「グローバル経済コース」、「社会福祉コース」、「健康サービスコース」の5つのコースに分かれ、それぞれの分野で社会の期待に応える研究を進めています。特にサービス産業で活躍していた産業界出身の教員も多く、ホスピタリティ分野の研究をはじめ、企業経営の他にも福祉、教育・スポーツ、観光・まちづくりなどさまざまな観点からサービス産業全体の発展に寄与し得る研究が進められています。

これら大学における「知」と企業、自治体など産学官をマッチングさせることで、新たな価値を提供していくために作成されたのが、この「研究シーズ集」です。これによって、少しでも本学が地域社会のために役立つことができれば幸いです。

## いま改めて、 狭山の地に 看護学部がある 価値を



看護学部 学部長 大賀 明子

サービス経営学部から始まった西武文理大学開設10年にあたる2009年に、埼玉県下3番目の看護学部として生まれた本学部も、気がつけばもう14年目を迎えます。「西武文理大学には看護学部がある」ということは、もうだいぶ地域の方々に知っていただいているかと思います。看護学部の教員の専門はもちろん看護学ですが、本学部の教員の特徴はそれぞれがホスピタリティを備えた優れた看護の実践家ですので、COVID-19パンデミックの中にあっては、学部教員も保健所で、ワクチン接種会場で、微力ながら地域の看護職と共にお手伝いをすることもできました。

看護学部の教員達は、看護学教育に携わるだけでなく、それぞれの専門領域に関連した多岐にわたる研究課題を追求しています。学部教育においては、初学者である学生たちが、看護学実習経験の中で気づき、感じた疑問を研究課題へと整理していく卒業研究に関わっています。

また、地域の職能の方々、すなわち、第一線の看護専門職が臨床実践活動のなかで遭遇する課題に共感し、妥当性の高い研究手法を用いた課題解明のプロセスにも伴走しています。教員達が取り組んでいる研究には、これからの実践に資する基礎研究はもちろん、地域のさまざまな生活の場の中で、市民のみならずとともに研究成果を見つけるアクションリサーチもあります。産み・生まれ、育ち育み、学び働き、暮らし生き抜くさまざまな世代における人々の健康に寄り添うことのできる看護専門職がここにあります。さやま市民大学などだけでなく、狭山の地に看護学部が存在することが、狭山の財産となるよう、さまざまな場面で協働・連携をさせていただきます。関心のあるテーマや内容が目につきまりましたら、どうぞお問い合わせください。

## 研究機関としての学部の特徴

# 研究シリーズ

## 2023

### 研究シリーズの見方

6つの研究カテゴリ  
に分類しています

企業・経営支援

産学・社会実用型研究

教育・人材育成支援

研究・活動支援

産学連携支援

産学連携支援

#### 経済社会の長期展望と地域デザイン（人口とイノベーション）



**岩瀬 忠篤**  
IWASE, Tadaatsu

**キーワード**  
 フューチャーデザイン、地域デザイン  
 人口減少抑制戦略と外国人の活用  
 超スマート社会と第4次産業革命  
 二地域居住による  
 社会システム産業の創出  
 SDGsとエンカル（倫理的）消費

**サービス経営学部**  
サービス経営学科 教授

**相談に応じられる関連分野**  
 ●人口・ライフスタイルの変化を踏まえた地域デザイン  
 ●二地域居住による社会システム産業の創出方策

**プロフィール**  
 1982年筑波大学社会学部卒業。同年経済企画庁（現内閣府）に入庁。内閣府大臣官房審議官、財務省財務総合政策研究所次長、国土交通省国土交通政策研究所副所長、国土交通大学校長などを経て2019年7月に退官。2020年4月より現職。シンガポール東南アジア研究所（SEAS）、千葉大学法経学部にも勤務。

**産業界・地域へのメッセージ**  
 地域デザインの作成を目指して協働させていただきます。

**研究・活動の内容**  
 「経済社会の長期展望」は、「人口」と「イノベーション」が鍵となります。「人口」については、第一に出生率の予測です。加えて、「外国人」の動向が重要になってきています。また、「二つの大きな不均衡」（超高齢化と人口の地域分布）に対応した戦略も求められています。私の提言としては、「少子化対策」のさらなる充実と「外国人の純流入」を増加させるための施策の強化の「合わせ技」で、日本人の定常化（サステナブル化）を目指さないかと考えています。また、不均衡への対応策としては、二地域居住による社会システム産業の創出がカギとなると考えています。そのた

めにも、地域のデジタル化とホスピタリティが現代の「論議と算盤」となります。  
 「イノベーション」については、アメリカ、中国、ドイツ等のグローバルな環境の中で考えていく必要があります。また、日本経済の生産性向上という観点はもちろん重要ですが、地域のレベルでも、デジタル化により、評価・数値化の難しい「ホスピタリティ」を含む「サービスの質」の向上に結びつけていく必要があります。また、エンカル（倫理的）消費と併せて、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に繋がる観点も求められています。

---

#### マーケティング・コミュニケーション



**金澤 良昭**  
KANAZAWA, Yoshiaki

**キーワード**  
 マーケティング  
 マーケティング・コミュニケーション  
 広告  
 広報  
 オウンドメディア

**サービス経営学部**  
サービス経営学科 教授

**相談に応じられる関連分野**  
 ●Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

**プロフィール**  
 法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関係の広告、広報の実務に従事後、大学教授となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

**産業界・地域へのメッセージ**  
 地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

**研究・活動の内容**  
 研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通して企業や商品に関するコミュニケーションを行っています。こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといいます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています（ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます）。

オウンドメディア（自社メディア）といわれるブログ/Webサイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価について探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでおります。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析しておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

研究に関連する  
キーワードです

研究・活動の内容  
を説明しています

相談に応じられる関連分野、略歴や所属学会、産業界・地域へのメッセージをまとめています

# 企業・ 経営支援

## 新製品・サービス開発の原価計算・管理会計



浅石 梨沙  
ASAISHI, Risa

### キーワード

製品・サービス原価計算  
コスト・マネジメント  
原価企画  
利益管理  
アメーバ経営

サービス経営学部  
サービス経営学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 新製品・サービス開発にともなう収益・原価管理
- 中長期利益計画の策定と実行
- 管理会計システムを活用した事業承継の円滑化

### プロフィール

早稲田大学政治経済学部卒、一橋大学大学院商学研究科博士  
後期課程修了、博士（商学）。日本会計研究学会、日本原価  
計算研究学会、日本管理会計学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

地元企業の持続的発展に貢献できれば幸いです。

### 研究・活動の内容

製造・サービス業における原価計算・管理会計を研究分野として、新製品・サービス開発における原価計算・管理会計をメインテーマとした研究をしています。近年では特に、「サービタイゼーション」と呼ばれる製造業のサービス化現象について、ここでの原価計算・管理会計技法の役割を検討しています。日本の製造企業では、新製品開発において、古くから「原価企画」とよばれる原価管理手法が用いられてきました。近年新たに生じてきたサービタイゼーションにも原価企画が活用可能であるか、活用する場合にはどのような工夫が必要であるかなどについて分析を進めています。また、

プライシングを含む収益管理についても関心を寄せています。これによって、単なる「コスト削減」に偏らない利益管理のあり方を追求しています。

このほかにも、主にファミリー企業における事業承継を対象として、事業承継に管理会計が与える影響について研究をしています。京セラ発の管理会計手法である「アメーバ経営」を軸として、管理会計手法の活用による事業承継の円滑化に関して分析を進めています。

## 経済社会の長期展望と地域デザイン（人口とイノベーション）



岩瀬 忠篤  
IWASE, Tadaatsu

### キーワード

フューチャーデザイン、地域デザイン  
人口減少抑制戦略と外国人の活用  
超スマート社会と第4次産業革命  
二地域居住による  
社会システム産業の創出  
SDGsとエシカル（倫理的）消費

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 人口・ライフスタイルの変化を踏まえた地域デザイン
- 二地域居住による社会システム産業の創出方策

### プロフィール

1982年筑波大学社会学類卒業。同年経済企画庁（現内閣府）に入庁。内閣府大臣官房審議官、財務省財務総合政策研究所次長、国土交通省国土交通政策研究所副所長、国土交通大学校長などを経て2019年7月に退官。2020年4月より現職。シンガポール東南アジア研究所（ISEAS）、千葉大学法経学部にも勤務。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域デザインの作成を目指して協働させていただきます。

### 研究・活動の内容

「経済社会の長期展望」は、「人口」と「イノベーション」が鍵となります。「人口」については、第一に出生率の予測です。加えて、「外国人」の動向が重要となってきています。また、「二つの大きな不均衡」（超高齢化と人口の地域分布）に対応した戦略も求められています。私の提言としては、「少子化対策」のさらなる充実と「外国人の純流入」を増加させるための施策の強化の「合わせ技」で、日本人口の定常化（サステナブル化）を目指せないかと考えています。また、不均衡への対応策としては、二地域居住による社会システム産業の創出がカギとなると考えています。そのた

めにも、地域のデジタル化とホスピタリティが現代の「論語と算盤」となります。

「イノベーション」については、アメリカ、中国、ドイツ等のグローバルな環境の中で考えていく必要があります。また、日本経済の生産性向上という観点はもちろん重要ですが、地域のレベルでも、デジタル化により、評価・数値化の難しい「ホスピタリティ」を含む「サービスの質」の向上に結びつけていくことが必要です。また、エシカル（倫理的）消費と併せて、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に繋がる観点も求められています。

## マーケティング・コミュニケーション



金澤 良昭  
KANAZAWA, Yoshiaki

### キーワード

マーケティング  
マーケティング・コミュニケーション  
広告  
広報  
オウンドメディア

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

### プロフィール

法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関係の広告、広報の実務に従事後、大学教員となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

### 研究・活動の内容

研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通して企業や商品に関するコミュニケーションを行っています。こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといいます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。

今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています（ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます）。

オウンドメディア（自社メディア）といわれるブログ/Webサイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価について探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでおります。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析をしておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

## サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム



甘泉 瑞応

KANSEN, Mizuo

### キーワード

価値共創  
サービス・マネジメント  
サービス・イノベーション  
地域活性化  
ベンチャー企業育成支援

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 経営環境の変化に対応する新しいサービスのデザイン
- イノベーションを起こす人材の育成
- 中小企業の経営支援や事業計画の策定支援

### プロフィール

上智大学法学部卒、富士銀行入行、会津大学大学院博士後期課程単位取得後退学・博士（コンピュータ理工学）、東北大学大学院博士後期課程単位取得後退学。会津大学 SGU 推進室元室長、本学 SIC センター長。中小企業診断士。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域におけるサービスのイノベーションや人材育成支援。

### 研究・活動の内容

持続的に成長を遂げているサービス企業がその変革期においてどのようにして事業システムを再構築しているのか、その設計思想を様々なアプローチから分析し、そのメカニズムをモデル化していく研究を行っています。具体的には、いくつかの企業の積極的な取り組みを調査し、その企業が直面する様々な困難を乗り越えるためにどのような意思決定を行ない、どのようなプロセスを経てイノベーションや体質強化をしているのか、そしてその先、どのようなゴールを目指そうとしているのかについての調査研究を行なっています。

モノからコトへのパラダイムシフトが浸透しています。また、IoT・ビッグデータ・AI活用の進化には目覚ましいものがあります。さらに、昨今のコロナ禍において消費者の意識や生活様式も大きく変化しています。このような先行きが読めない不確実性の高い環境において、企業は、脅威を機会に転換すべく、経営資源を見つめ直し、再構築を行い、ステークホルダーとも新たな視点で関係づくりをしていく必要があります。そして、環境に対応する新しいサービスのあり方を考え、デザインし、イノベーションを起こす人材を育成していくこともますます必要だと考えています。

## 実務・コンサルティング経験での知見の理論化研究



黒崎 宗宏

KUROSAKI, Munehiro

### キーワード

アパレル・小売業等の競争戦略  
サービスマネジメントの仕組み  
経営幹部教育／  
グローバル人材育成

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 主にアパレル業、小売業の経営戦略・事業戦略支援

### プロフィール

早稲田大学理工学部卒、シカゴ大学経営大学院修了（MBA）、高知工科大学博士後期課程起業家コース修了（学術博士）。西武百貨店、野村総合研究所を経て2015年より本学に奉職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の企業と連携し共に成長したいと思います。

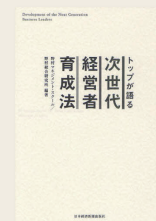
### 研究・活動の内容

大手小売業での経営企画、野村総合研究所での経営コンサルタントの経験により、企業の経営力の差異に興味を持つ。理論では簡単に説明できても実行するのは簡単ではない。日米タイ台湾のセブンイレブンのコンサルティングでは、同じビジネスモデルでもPDCAの徹底力による差が収益力で大きな違いを生んでいた。また、環境が変われば同じ戦略が通用しなくなることも多い。成功の鍵となる要因を研究している。

### 研究成果に関する著作



韓国語、中国語版も出版された流通業に関する共著



日本を代表する経営者のインタビューも含む共著

## 小売業の競争戦略



**小玉 武生**  
KODAMA, Takeo

### キーワード

流通  
“Amazon effect”  
街づくり  
人材育成  
商品開発

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 小売業・サービス業の出店、運営、商品開発支援（商工会議所）
- 街づくり、地方行政への助言（JR九州、都市計画審議会）
- 人材育成（中小企業大学校、東京都生活文化局等）

### プロフィール

慶應義塾大学卒。西武百貨店に22年間在籍し営業や経営企画に従事。その間流通産業研究所、経済同友会でそれぞれ主任研究員、シニアリサーチフェローとして調査研究にも携わった。

### 産業界・地域へのメッセージ

企業も地域も、飛躍の原点は発想の転換と人づくり。

### 研究・活動の内容

これまでのキャリアでの幅広い経験を活かして、大学教員として様々なテーマに公的な立場で取り組み、課題解決に繋げてきた。具体的には、狭山市の総合計画審議会会長、都市計画審議会委員、まち・ひと・しごと創生有識者会議委員、都市再生整備計画評価委員、さやま市民大学の運営NPOさやま協働ネットの理事等を務め、提言や計画の立案、運営に貢献した。また、シンクタンクでは流通の研究者として電力中央研究所有識者会議ワーキング・グループメンバー、東京都生活文化局流通調査専門アドバイザー、中小企業大学校非常勤講師、経済企画庁流通問題研究会ワーキング・グループ

メンバーを数年に亘って務めた。この他通産省、農林水産省、公正取引委員会、JR九州等多くの機関・企業からの委託調査、受託事業を主査として先導した。最近の研究としては、“Amazon effect”によってGAPやトイザらスといった名立たる大手小売業が店舗閉鎖に追い込まれる中、これからの小売業はどうあるべきか、10年後の流通産業の姿はどうなるのか。もはや在庫管理や店舗運営のノウハウは無用となり、データ・マイニングに長けたものだけが成功するのだろうか。こうした視点から、まさに岐路に立たされている流通産業の変革の透視図について考察しているところである。

## 顧客経験価値とマーケティング・デザインの研究



**高瀬 浩**  
TAKASE, Hiroshi

### キーワード

マーケティング戦略  
マーケティング・デザイン  
サービス・マーケティング  
消費者行動

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 企業等における経営戦略、マーケティング戦略の助言  
2007～12年某旅行会社で社外取締役として経営全般の助言  
多くの企業等で経営戦略、マーケティング戦略等を教える

### プロフィール

法政大学大学院社会科学部経営学専攻修士課程修了。日本ダイレクトマーケティング学会理事。著書は、『ステップ式MBAマーケティング入門』（単著、ダイヤモンド社）等。

### 産業界・地域へのメッセージ

マーケティング・デザインで、地域活性化を支援する

### 研究・活動の内容

サービス・マーケティングの研究分野でも、今大きな波が打ち寄せています。サービス業の多くの現場では、今まで人を介して顧客にサービス価値が提供されていました。だからこそ、サービス提供者である従業員の役割が重視され、企業もインターナル・マーケティングにも重きを置いてきました。その中で、顧客との良好な関係を構築し、相互作用の中で価値共創の考え方も生まれ、定着してきました。しかしながら、最近では人手不足や技術の進歩によって、サービス提供者が人から機械等に代替されることも多く、その関係性は変化しています。そこで、こうした時代の変化に合わせて、

どのように経営資源の最適化と収益の仕組みを考えれば良いのか、そのためには顧客価値を新たに再定義し、顧客との関係性も再考しなければなりません。それは、これまでのマーケティングの考え方をさらに一歩進め、企業と顧客との関係性に留まるのではなく、社会との価値共創へと深化させる必要があるはずです。そうした有効性を実証することで、新たな顧客創造へと繋げていくことが今の研究課題です。そのために、新たな顧客の経験価値に伴うマーケティング・デザインのあり方を研究しています。

## 時空間データの可視化やシミュレーション



**野口 佳一**  
NOGUCHI, Yoshikazu

### キーワード

時空間データ分析

可視化

シミュレーション

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 時空間データの可視化やシミュレーションに関する相談

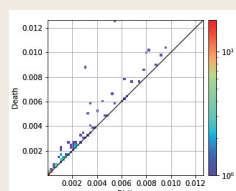
### プロフィール

法政大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。民間企業の研究所を経て現在に至る。計測自動制御学会、情報処理学会等の会員。

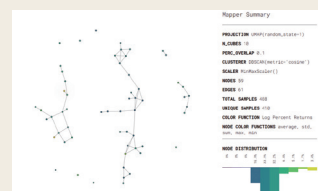
### 研究・活動の内容

自然現象や社会現象から計測される時空間データの可視化やシミュレーションを研究しています。たとえば、位相的データ解析による可視化があります。位相的データ解析には、点群データに潜む「かたち」を重要度ラベル付きで表現するパーシステントホモロジーと、与えられたデータから位相的情報を縮約したリープグラフを構成するマップパーがあります（図参照）。このように、様々な時空間データを分析したり可視化することで、新たな現象を見つけたり、因果関係を解明したり、有用な情報を得ることを目指しています。

### 位相的データ解析による可視化例



川越市の公共施設に設置されたAED位置データから得られたパーシステント図



日経平均株価にマップパーを適用して得られたグラフ

## ホテル事業の経営と運営の分離、ホテル資産の評価



**馬場 哲也**  
BABA, Tetsuya

### キーワード

ホテル経営

ホテル運営

エアライン業界の方向性

インバウンド

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- ホテル経営・運営に関わる助言

### プロフィール

東京大学卒、コーネル大学ホテル経営PDP修了。日本航空に29年、三井不動産ホテル部門に4年勤務。内外124ホテルに携わる。米国公認会計士合格。著書『エアライン・ビジネス入門』。「ホテル・マネジメント技能検定」検定員。

### 産業界・地域へのメッセージ

エアライン業界・ホテル業界の動向を解説します。

### 研究・活動の内容

ホテルは土地・建物を活用する不動産事業であると同時に、お客様へのホスピタリティを提供するサービス事業との二面性を持ち、不動産事業とサービス事業の総合価値がホテル資産価値を決定付ける特殊性がある。

一般商業不動産とは異なるホテル資産の評価特性とホテル投資・売買における特殊性を分析し今後の方向性を考察する。



観光業の大きな要素であるエアライン業とホテル業の両方に精通しています。

## 中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGsの研究



**藤野 洋**  
FUJINO, Hiroshi

### キーワード

中小・ベンチャー企業の経営革新  
中小企業政策、産学官連携  
CSR(企業の社会的責任)  
SDGs(持続可能な開発目標)  
コーポレートガバナンス

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 中小企業経営の高度化に関連する事例の紹介
- CSR・SDGsを経営に導入した中小企業に関する講演
- SDGsの展開に関する自治体・公的機関等への助言

### プロフィール

金融機関・シンクタンク等で中小企業の金融・経済動向、CSR経営の研究に従事。一橋大学大学院国際企業戦略研究科博士課程修了、博士(経営法)。日本中小企業学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

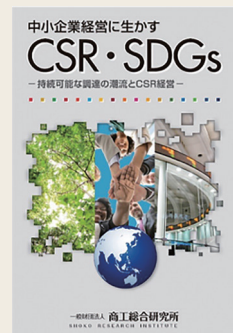
地域・産業界の連携によるSDGsの展開が喫緊の課題です。

### 研究・活動の内容

現在、地域経済とその担い手である中小企業が長期にわたって衰退傾向で推移しています。このため、日本の企業システムについて、主に中小規模の企業(ベンチャー企業を含む)に焦点を当てて、企業活動やそのフレームワーク・環境の整備に関する研究を行ってきました。本学では、地域および中小企業の経済的な活性化のために必要な(政策)提言を目指しています。具体的には、これまでの成果を踏まえて、企業統治、CSR・SDGs、アントレプレナーシップ等に関する研究をさらに深めるとともに、ステークホルダーとの連携による地域の活性化にも取り組みたいと考えています。

### 研究成果に基づく図書

世界的にみても少ない中小企業のCSR・SDGsに関する研究を基にした図書



## 金融論 交通経済学 地域研究(ヨーロッパ)



**松澤 祐介**  
MATSUZAWA, Yusuke

### キーワード

ヨーロッパ  
中欧 東欧  
金融政策  
鉄道政策  
経済政策

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- EU加盟国(特に中欧、東欧)への(日系)企業進出
- 日本・EU(特に中欧、東欧)の銀行・金融市場・金融政策
- 日本・欧州各国の交通事情、交通政策、観光政策

### プロフィール

慶應義塾大学(経)卒。一橋大学院博士後期課程単位修得退学(修士・経済学)。ウィーン経済大学留学。日本銀行を経て現職。日本金融学会、日本EU学会、比較経済体制学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

狭山とヨーロッパを繋ぐ役割が果たせればと思います。

### 研究・活動の内容

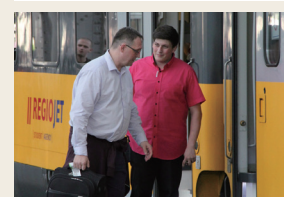
ヨーロッパと日本の「経済体制比較」を研究分野に、銀行制度、通貨統合、鉄道政策等をテーマとしています。ヨーロッパの中でも、ドイツ・オーストリアから東の中欧・東欧を専門とし、最近の研究対象としては、グローバルな金融危機と欧州への影響・政策対応、共通通貨ユーロのチェコ、ポーランド、ハンガリーの導入問題、EUの鉄道政策と各国の旅客鉄道市場自由化(オープンアクセス)、日系企業のチェコ、スロバキアへの進出などを扱っています。この数年「ポピュリズム」勢力の浸透も著しいことから、その経済政策面への影響をこれらのテーマに重ねて分析を進めています。

### チェコ通貨「コルナ」とポーランド通貨「ズウォチ」



EU加盟国の義務に反してユーロを導入しない中欧・東欧の国々の政治・経済事情を研究しています。

### 鉄道の「上下分離」とオープンアクセス



EU諸国は同じ線路上での複数の会社の運行や入札による運営委託を通じて鉄道経営の効率化を図っています。



# 医療・福祉 専門職支援

## 小児看護学教育及びコロナ禍の子育て支援に関する研究



井上 寛隆  
INOUE, Hirota

### キーワード

小児看護  
看護基礎教育  
コロナ禍における子育て支援

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 小児看護学教育について
- 子どもの看護について
- コロナ禍における子育て支援について

### プロフィール

大学（看護学学士）で看護師、保健師資格取得。大学病院で勤務後、埼玉医科大学短期大学看護学科、2009年より西武文理大学看護学部看護学科で勤務し現在に至る。

### 産業界・地域へのメッセージ

子どもと地域が元気になれるように頑張っていきたいです。

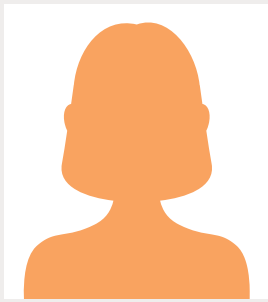
### 研究・活動の内容

小児看護学教育では、小児看護学実習にむけて必要な準備として用いる課題、小児看護を思考する力と実践が結びつく演習（シミュレーション教育を導入した演習方法）、授業の順序性や展開方法についての検討を行っています。また、小児看護学実習時の教育では、順序性や展開方法についての検討を行っています。その他、子どもを笑顔にできるようにするため、学生がユーモアをどのように捉えているかを知り、学生にどのようにユーモアを感じ、ユーモアの看護援助が実践できるようになるかを考えるために、子どもや学生の捉えるユーモア、ユーモアカンファレンス（実習場面でのユーモ

アを振り返り考える）実践についてなどの検討を行っています。

2021年度の共同研究では、実際に子育てをされている親御さんを対象とした研究に着手し、2022年度の共同研究では、保育士や保育施設責任者を対象にした、コロナ禍における子育て支援に関する研究にも取り組んでいます。

## 多職種・多部門連携における看護師の役割に関する研究



岡田 信子  
OKADA, Nobuko

### キーワード

多職種・多部門連携  
リフレクション・省察

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 多職種・多部門連携における看護師の役割について

### プロフィール

日本赤十字看護大学大学院修士課程修了。修士（看護学）。東京女子医科大学病院消化器病センター ICU 勤務、目白大学看護学部 実習指導教員（成人看護学、基礎看護学）、東京衛生病院救急外来・内視鏡室勤務を経て、2018年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

多職種協働による患者支援を研究中です。

### 研究・活動の内容

日本において専門職間の連携は、「チーム医療」「チームアプローチ」などの用語が用いられてきましたが、近年では「多職種連携」という用語が広く用いられています。多職種連携は、単なる業務分担ではなく、専門性の相互理解に基づく協働・連携を中心に展開されるものと理解しています。

その中で看護師は、生活する患者を支えるという看護本来の役割を踏まえつつ、自身で気づきを得ながら、チーム力をどのように推進していけるのか、をテーマに取り組んでいます。その際、気づきを得る手法の一つとして、リフレクションを学んでいます。

「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療・介護への移行が推進される中で、生活と療養に専門性を発揮できる看護の力を促進するために、今後は、理論・実践・研究の統合的な手法を学んでいきたいと考えています。

## 介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する



影山 優子  
KAGEYAMA, Yuko

### キーワード

福祉介護職のキャリア形成  
福祉・介護人材育成  
成長経験  
業務改善  
学生の地域活動支援

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 福祉介護職員のキャリア形成に関する支援
- 福祉介護事業所の業務改善支援（調査研究実施の助言等）
- 地域活動等に関心を持つ学生とのマッチング支援

### プロフィール

日本社会事業大学卒業後、介護職員を経て同大学院博士前期後期課程修了、博士（社会福祉学）社会福祉士、精神保健福祉士。所属学会：日本認知症ケア学会、日本老年社会科学会、介護福祉学会、介護経営学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の中で面白い仕掛けを作っていきたいです！

### 研究・活動の内容

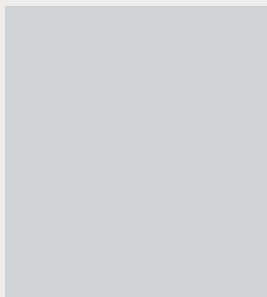
学生時代に高齢者介護の現場に触れる機会があり「介護の仕事はとてもおもしろく、奥の深いものである」と直感し、自らの初職を特別養護老人ホームでの介護職員としてスタートさせました。その後、大学院を経て現在に至るまで、一貫して介護福祉の現場やそこで働く職員に関する研究に取り組んでいます。

これまで行った研究テーマとしては、認知症高齢者に対するまなざしの研究、介護職員の成長経験、現場で活躍する介護リーダーの特性の研究、などがあります。いずれの研究においても現場で働く職員の意識や態度、またそれらの形成過程について着目しています。

最近では教員という職業上、特にキャリアのスタート時点である新卒者がどのような目的やきっかけで就職活動時に福祉介護業界で働くことを選択し、その後どのようなキャリア形成がされているかといったことに強い関心を持っています。

福祉介護職員のキャリアの構築については、キャリアパスの仕組みの導入や経験に応じた処遇改善の実施など様々なされていますが、こうした制度的枠組みの中で外発的に築かれていくキャリアとは別に、仕事に対してやりがいを感じ、経験そのものが成長に結びついていく内発的なキャリア形成のあり方に着目していくことが重要ではないかと考えています。

## 現代に活かすナイチンゲール看護論



神庭 純子

KAMINIWA, Junko

### キーワード

看護教育・看護倫理  
ナイチンゲール看護論  
公衆衛生看護  
家族看護  
生活習慣病予防

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 生活習慣病予防における地域活動への支援に関わる事項
- 看護専門職者の現任教育（看護倫理等）に関わる事項
- 教育一般及び家族問題に関わる事項

### プロフィール

埼玉大学教育学部卒業、聖隷クリストファー大学看護学部卒業、同大学院修士課程修了 修士（看護学）、筑波大学 博士（学術）。主著：初学者のための『看護覚え書』第1～4巻（現代社）、『現代看護教育に求められるもの』（現代社）。

### 産業界・地域へのメッセージ

健康をキーワードとして地域づくりに貢献していきます。

### 研究・活動の内容

近年の看護教育を取り巻く状況は、少子高齢化の進展、医療技術の高度化、看護を提供する場の多様性等により変化してきており、様々な健康問題を抱える人々のニーズも多様化する中で、より質の高い看護を提供できる専門職者の養成が求められています。そこで、以下のように、看護教育及び地域における母子保健や成人保健に関するテーマで研究に取り組んできています。

まずは、ナイチンゲール看護論を基盤にした看護教育に関する研究と実践です。看護の原点であるナイチンゲール『看護覚え書』を現代社会に活かす視点から論理的に読み解いて

います。研究成果をもとに看護専門職者の現任教育として、看護倫理に関する研修支援をしています。

次に、生活習慣病予防対策に関する研究への取り組みと地域活動の支援です。また、養育期の家族機能の視点から虐待予防のための母親及び父親の育児不安の要因に関する研究に取り組みました。現在は、公衆衛生看護実践能力を育成する教育プログラムの検討に取り組んでいます。

今後も、看護基礎教育のみならず地域の看護専門職者の研修支援や、健康寿命の延伸を目指すための地域づくり活動に専門性を活かして貢献していきたいと考えています。

## 在宅看護・訪問看護の発展



小松 妙子

KOMATSU, Taeko

### キーワード

在宅看護  
訪問看護  
看護学教育

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 訪問看護師対象の研修支援

### プロフィール

千葉大学看護学部卒、看護学修士（千葉大学大学院）。看護師、保健師。千葉県がんセンター看護師、東京都小平市役所保健師、秀明大学看護学部教授を経て2021年4月より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

より良い在宅看護・訪問看護をめざし共に歩みましょう。

### 研究・活動の内容

すべての人が望む場所で、人間として生活者として尊重され、目標に向かって生き、また生を終えることを支援する在宅看護への期待と重要性は高まっています。在宅で看護を直接的に担う訪問看護師への活躍もますます期待され、期待に応えるには日々進歩する医療や看護ケアに関する知機や技術をタイムリーに学修・修得すできる学習機会が必要です。しかし、知識・技術の修得の機会や体制は十分ではありません。そのため、これまで訪問看護師への学修ニーズ調査に基づき、教育プログラムを開発し、実際に感染予防の研修会を開催し効果検証を行いました。今後は、在宅ターミナルケア実施に

伴う学修ニーズ調査結果を踏まえて必要とされる学修内容を組み入れた研修会を開催し、より良い在宅看護に貢献したいと考えます。

また、訪問看護事業所の安定的な経営に関する支援について、看護学部とサービス経営学部をもつ大学の強みを活かして研究しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

## プレパレーション・処置後の遊びへの看護介入



坂田 徳生

SAKATA, Tokusei

### キーワード

子どもの権利  
小児看護  
プレパレーション  
処置後の遊び  
プレパレーションの評価

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 小児臨床看護に関する事項
- 障害児（者）への看護
- 小児看護でのキャリアアップ

### プロフィール

看護師免許取得後、グリフィス大学保健学部編入・卒業、国際医療福祉大学大学院修士課程修了（医療福祉修士）。臨床では主に大学病院の小児病棟勤務。2023年4月本学へ着任。

### 産業界・地域へのメッセージ

様々な健康状態の子どもと家族を支援する教育を進めます。

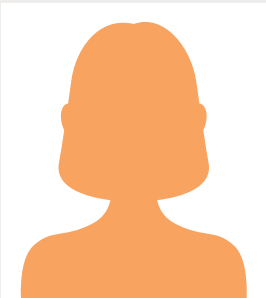
### 研究・活動の内容

近年の小児看護学の教育や臨床での小児看護では、子どもの権利や子どもを尊重することを基盤として、その教育と医療が行われ、看護が実践されています。その中でも医療に対する子どもの不安や恐怖の軽減、疼痛緩和、親の不安の軽減などを目的として、医療処置、手術、検査を受ける子どもを対象に、事前に実施する「プレパレーション（心の準備）」の必要性の認識が浸透し実践することが定着してきています。このプレパレーションについては、小児看護において特有であり、これまで数多くの研究が報告されています。

最近、着眼しているプレパレーションに関する研究につい

ては、処置・検査・手術後、あるいは緊急入院後に行うべき「処置後の遊び（post procedure play）」での看護介入の方法、数多く報告されているプレパレーションに関する研究の動向です。大学は研究・教育機関であること、看護の実践の場においては研究が必要であるということから、研究の成果は、臨床のほか、大学における教授内容にも活用していきたいと考えています。

## 基礎看護技術の学習と看護観の形成に関する支援



佐藤 智子

SATO, Tomoko

### キーワード

看護学教育  
看護技術の学習方法  
フィジカルアセスメント技術  
看護とは何か  
その人らしさ

看護学部  
看護学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 正しい健康チェック方法・測定手技に関する助言
- ケア提供者の「その人を捉える」能力の育成

### プロフィール

静岡県立大学看護学部助教、杏林大学保健学部看護学科講師を経て2020年4月から現職。所属学会：日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

日々の生活でも使える看護技術がモットーです。

### 研究・活動の内容

基礎看護技術の学習において「いかにわかりやすく理解し、スムーズに実践につなげられるか」を支援することをテーマに活動しております。

特に、フィジカルアセスメントの基本技術に関する学習支援に取り組んでいます。自分の五感と、少しの測定器具だけで身体的な健康状態を把握できるので、看護の場面だけでなく、日常生活でも役立つ技術となります。一方で、いい加減な技術でも何かしらの「測定結果」が得られてしまうため、誤った判断につながる可能性があります。

よって、正しい技術を学んでもらうために、バイタルサイ

ン測定の原理と方法に関する動画教材の作成や、腹部の観察技術トレーニングのための簡易モデル・サンプル素材の開発への参加を行ってきました。

また、地域住民への講演「五感を使って健康チェック」や、地域の養護教諭への技術研修では、看護技術を看護職以外の方にも共有していただきました。

看護では、身体面だけでなく、対象となる人を全体的に捉えることが必要です。そこで看護学生の患者観・看護師観の形成を支援するための研究に着手したところ です。

## 組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験－病棟再編に焦点をあてて－



佐藤 直子  
SATO, Naoko

### キーワード

看護管理  
組織改革  
病院統合  
病棟再編

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 看護管理者教育に関わる事項
- 病院統合・病棟再編などにおける看護管理実践に関わる事項

### プロフィール

日本赤十字看護大学大学院修士課程(看護教育学専攻)修了後、日本赤十字社医療センターにて看護師長として勤務。その後、神奈川県立保健福祉大学実践教育センターにて看護管理者教育課程・多職種連携推進課程の専任教員として勤務しながら、日本赤十字看護大学大学院博士後期課程(看護管理学専攻)修了し現在に至る。

### 産業界・地域へのメッセージ

“人との対話を大切に”をモットーに看護専門職を育成していきたいです。

### 研究・活動の内容

我が国では、2025年には国民の4人に1人が75歳以上となることが推測され、医療費の増加が国民所得の増加を上回り、医療費の抑制を目的とした医療提供体制の改革が行われてきました。さらに、2040年に向け、労働力となる現役世代の人口が急減する新たな局面が推測され、保健・医療・福祉の提供サービスの確保が課題となっています。国民がよりよく地域で生活ができるよう他職種と連携して支援できる看護専門職の育成は重要であります。医療施設での現任教育、リカレント教育に携わり、看護管理者が将来を見越してどんな役割が期待されるのか研究してきました。研究する中で、

将来を見越した分析力や意思決定能力が問われていました。

さらに、よりよい看護サービスを提供できるよう、組織を動かしたり、医療施設、福祉施設、地域医療に関わる多職種との連携において、伝統的な考え方を大切にしつつ新しい視点を持ち、対話を重ねることが必要であることが示唆されました。そのためには、看護基礎教育の中で、相手と対話する能力、看護サービスを提供する上で必要な基本的知識を習得しながらも自分なりの問題意識を持ち、それを探求していく能力を育てていきたいと考えています。

## 外国人医療人材への支援プログラムの構築－外国人技能実習制度の活用に向けて－



鈴木 浩美  
SUZUKI, Hiromi

### キーワード

EPA 看護師  
就労実態  
外国人医療人材 (福祉)  
福祉施設管理者

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- EPA看護師の就労実態に関わる事項
- 介護老人福祉施設管理者の外国人介護労働者の受入れ実態

### プロフィール

聖隷クリストファー大学看護学研究科 後期博士課程 満期退学、修士(学術)。日本看護学科学会、日本看護管理学会等に所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

外国人医療人材の支援をこれからも考えていきます。

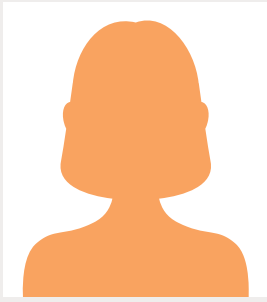
### 研究・活動の内容

日本の第7期介護保険事業計画によると2025年度末までに必要な介護人材は約245万人であるが、2019年の時点では約211万人と、大幅に不足している状況である。その総合的な介護人材確保対策の1つとして外国人国籍の人材受入環境の整備がある。2020年現在16,500人以上の外国人医療人材が日本で就労している(法務省、2020)。

介護老人福祉施設(関東3都県、関西3県)の施設管理者に調査した結果、老人福祉施設での外国人介護労働者の受入れ制度は、「技能実習制度」、「EPA(Economic Partnership Agreement)介護士」、在留資格「介護」によるもの、「特定

技能1号」の順に多かった。受入れにあたって、言語などを含めて外国人介護労働者に対応できる担当者を配置し、その支援体制を構築する必要性を認識していた。希望する支援内容は、受入れ成功例に関するものが7割を占め、導入支援、手続き支援、定着支援、留学生の活用、失敗事例等があった。今後は外国人介護労働者の受入れ成功体験や介護労働者本人との交流など、情報共有の場を持ち、施設管理者の受入れ意識を高めることが求められている。(科学研究費補助金 課題番号:17K09249, 研究代表者:井野恭子)

## 周手術期看護に関する研究、がん患者・家族支援の検討



関根 みぎわ  
SEKINE, Migiwa

### キーワード

急性期看護  
周手術期看護  
がん看護  
家族看護

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 周手術期における看護に関わる事項
- 家族への支援に関わる事項
- がん患者と家族に関わる事項

### プロフィール

埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。修士（看護学）。埼玉医科大学国際医療センター勤務を経て現職。日本看護科学学会、日本がん看護学会、聖路加看護学会所属

### 産業界・地域へのメッセージ

手術を受けるがん患者さんご家族を支えます。

### 研究・活動の内容

がんはすべての人にとって身近な病気です。現在がんに対する標準治療として集学的治療が行われています。中でも手術療法は健康回復やQOL向上を目的として行われる治療ですが、患者さんのみならず周囲の人々をも巻き込む人生の一大事と言えます。手術後は生活のしづらさや、退院後の生活に対する漠然とした不安、それまでと生活が一変してしまうことへの動揺など、患者さんや家族は様々な困難が生じる可能性があります。頭頸部がんの手術療法として喉頭摘出術が行われています。この術式は、がんの根治性においては優れていますが、失声すなわち発声機能を喪失し、発声・発

語によるコミュニケーションの重要な手段を喪失することとなります。失声によりそれまでと生活が一変してしまう状況を抱え、不安を覚え動揺する患者さんと家族に対し、より質の高い看護ケアの提案が求められています。そこで、手術療法を受ける患者さんと家族に対する看護ケアや、手術後の生活の立て直しに向かう支援のあり方を検討しています。

今後、患者さんと家族が手術前の時間を大切に過ごせるよう、手術後の生活の立て直しがスムーズにできるような支援をしていきたいと思っております。そして周手術期の患者・家族のケアの構築につなげていきたいと考えています。

## 男性看護師のGSEに影響を及ぼす要因とキャリア形成



大工原 慈仁  
DAIKUBARA, Yoshihito

### キーワード

男性看護師  
キャリア形成  
GSE（自己効力感）  
レジリエンス

看護学部 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 男性看護師のはたらきがいについて
- 男性看護師のキャリア形成について

### プロフィール

独立行政法人国立病院機構東京病院で看護師として勤務しつつ目白大学大学院にて看護学修士を取得。副看護部長を経て2015年より現職。（ICU、内視鏡室、呼吸器内科を経験）

### 産業界・地域へのメッセージ

男性看護師に興味のある方、ご相談承ります。

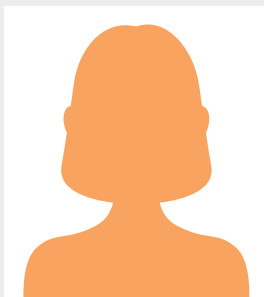
### 研究・活動の内容

近年、男性看護師の数は徐々に増えてきていますが、看護組織においてはまだ少数派であるといえます。男性看護師は組織内での同僚との関係性に悩んだり、働いていくうえで特有の体験と葛藤を持つ事が報告されています。男性看護師は特有の経験を通し悩み、アイデンティティを模索しながらキャリア形成を行うと考えられています。そこで私は男性看護師が働くうえで何を困難とし、支えとし、やりがいを感じているのか、またキャリア形成に与える影響はあるのか、この点に興味をもち大学院で研究に取り組みました。看護師としての理想像がある男性看護師は（理想像がない男性看護師

に比べて）自己効力感（自分はできそうだといった確信）が高いという結果が得られています。

時代の変化と共に看護組織内の男女の比率も変わり、今では病棟でも男性看護師を良く見かけるようになってきました。男性看護師の働き方にどのような変化があるのか引き続き注目していきたいと考えております。

## 潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討



中澤 美弥  
NAKAZAWA, Miya

### キーワード

潜在看護職  
ナースセンター  
復職支援研修  
研修実施率  
研修要望度

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 潜在看護職の復職支援に関する事項

### プロフィール

目白大学看護学研究科看護学専攻修士課程修了。修士（看護学）。看護師。病院、訪問看護ステーション等に勤務。2018年4月から現職。老年・在宅看護学領域  
所属学会：日本看護学会・看護管理学会・日本看護科学学会・日本看護学教育学会・日本看護技術学会

### 産業界・地域へのメッセージ

地域包括ケアシステムの中での看護職の役割について。

### 研究・活動の内容

看護職は、病院だけではなく地域や企業など活躍する場が拡大し社会の中で期待されている存在です。しかし看護職不足は解決できていません。「人の役に立ちたい」「病気と闘う人々の力になりたい」と高い志を持ち看護の道に入ったものの、現実の厳しさなどから道半ばで挫折する看護職も多く存在します。資格取得後、就業し退職したまま現在就業していない看護職を「潜在看護職」とし、現在全国に71万人存在するといわれています。復職に躊躇している理由の一番に、「最新の知識が不足している」という不安を抱えていることが研究の結果わかりました。潜在看護職の復職支援は、看護

職確保の最も有効な方策です。全国で実施されている復職支援研修の実態を調べ、潜在看護職が求めている研修内容と一致しているのかを検証し、今後の研修プログラム構築への一助となるよう検討した結果、「実施率も高く要望度も大きい研修項目：分類A」、「実施率は低い却要望度は大きい研修項目：分類B」、「実施率は高い却要望度は小さい研修項目：分類C」、「実施率も低く要望度も低い研修項目：分類D」に4分類されました。今後は、この結果を参考にして潜在看護職が安心して再び地域の中で活躍できる看護職が増えることを期待し、研修カリキュラムを構築したいと思います。

## 精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス



原田 瞳  
HARADA, Hitomi

### キーワード

看護教育  
精神看護学  
自己洞察

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 精神科看護に関する事項
- 精神看護学実習指導に関する事項
- 心の健康に関する事項

### プロフィール

看護師。修士（順天堂大学大学院医療看護学研究科）。精神科勤務を経て2010年より看護教育に従事、2019年より現職。日本精神保健看護学会、日本精神障害者リハビリテーション学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

看護師育成への環境提供ありがとうございます。

### 研究・活動の内容

精神看護の実践では、精神科に入院する患者の気持ちや状況をありのままに受け止め、患者のその人らしい生活や、自己決定を見守り支えることが重要である。

しかし、実習で初めて精神科を訪れる学生は、それまで疾患や看護についての学習を経ているにもかかわらず精神科に対する恐怖感や強い緊張感を持って実習に臨む学生も少なくない。

そこで精神看護学実習における、精神科に入院する患者を理解しようとする時の学生の感情や思考に着目し、学生が自分自身への洞察を経ながら患者を理解しようとするプロセスを明らかにした。学生が自分自身への気づきや患者を理解し

ようとするプロセスを大切にしながら教育活動を行っている。

また、精神看護の実践においては、言語化されない看護師の行動の中にも、常に精神看護の実践が行われていると考えている。精神看護はコミュニケーションが重要であり、また、自己活用等というキーワードはあるが、患者との関わりの中で生じる行動が、なぜそれが精神看護なのか、という点の多くは明らかになっていない。看護実践のなかに根付いている精神看護をさらに細かく抽出していく事が、今後の精神看護の課題であると考えている。

## 頭の働かせ方を理論的に解き明かして、課題解決を図る



山田 秀樹  
YAMADA, Hideki

### キーワード

理論看護学  
看護実践方法論  
死生看護学  
看護の統合  
看護学教育

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 看護保健福祉分野のケアの課題事例分析への助言
- 看護やケアの援助過程の再構成と分析の支援

### プロフィール

東京慈恵会医科大学専任講師、目白大学・大学院准教授等を歴任。社会福祉法人日本キリスト教奉仕団評議員。著書に『ケアとしての死化粧』『基礎看護学 resume 集』等。

### 産業界・地域へのメッセージ

ケアの抱える課題や困難事例を看護学が解決に導きます。

### 研究・活動の内容

よい看護やケアが社会に行き届くには、専門職者が看護に対する科学的な視座を持てることと、同時に温かい心で相手の立場に立った看護を実践できることが不可欠です。グローバル化で社会的基盤が標準化を重視する近年の枠組みの中、マニュアルや標準計画が業務の質・量を底上げする効果は承知しつつも、それ無しに目の前の現象の問題性や行為の選択を判断できないのでは看護にとって本末転倒な状況です。看護の質の保証を個々人のレベルでという社会の要請にこたえるためには、自ら事実を見つめ・考え・実践する専門職者に相応しい頭の働かせ方が、看護学教育にも臨床看護にも適用され

るよう研究が推進されねばなりません。専門職者として確かな視座がもてれば、相手の置かれている状況をとらえその位置に身を置けるはずですし、そうして相手の心身の消耗する状況を感じ取れば、その人を尊重して看護しようと科学的に促進することができます。このような教育や看護実践を可能にする理論的な実証研究として、理論看護学的なアプローチによる臨床看護やケア場面の構造分析や、看護学教育を理論的に支え導く実践等に取り組んでいます。研究の知見は、自らの頭脳で自在に個々の看護現象を見きわめ実践へと展開できる看護職者の育成に活かし検証しています。

### Column 01

## 学生が柏原小学校「防災教室」の1日先生になりました！

本学では地域交流活動の一環として、地域の活動団体とともに、小学生の防災意識を高めるための活動を行っています。

昨年度は、狭山市立柏原小学校にて、小学4年生を対象として実施された「防災教室」に両学部の学生18名が参加しました。一昨年度に続いて参加した学生も多く、この活動に関心が高いことを伺わせました。

今回のテーマは、「災害とはなにか」、「防災倉庫の中身って?」、感染症から身を守るための「手指消毒・ソーシャルディスタンス」の3つで、小学生にわかりやすく伝えるための工夫を凝らしました。

小学生は、クイズや実演を交えた授業から楽しく学び、学生たちも児童の反応がみえることに手ごたえを感じていました。





# 教育・スポーツ・ 生涯学習

## スポーツマインドを育成する



加藤 三彦

KATO, Mitsuhiko

### キーワード

コーチング  
フェアプレイ  
コミュニティ  
ボランティア  
ホスピタリティ

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 各種分野におけるコーチングについての事項
- スポーツ分野における指導法についての事項
- 自己向上のためのマインド・スキルについての事項

### プロフィール

筑波大学体育専門学群卒。日本コーチング学会・日本バスケットボール学会に所属。JBA公認A級コーチ、JBAコーチデベロッパ、埼玉県バスケットボール協会理事、男子バスケットボール部監督。

### 産業界・地域へのメッセージ

フェアプレイの心と行動で、人づくり・地域づくり。

### 研究・活動の内容

スポーツ科学領域に位置付けされているコーチングをベースに、フェアプレイの心と行動について、教育・研究・指導を行っています。スポーツは、人間が健康で豊かに生活するためには欠かせない文化です。明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個人の心身の健全な発達、社会におけるリーダーシップ発揮などには、身体的能力だけではなく、しっかりとしたマインドや他者理解力が必要です。専門分野であるバスケットボール部にも携わり、適切な判断力やチームをまとめる統率力、マネジメント力などのチームビルディングの在り方を追求しています。部活動の指導を通して、強化を図ると共に、

部員の人間力向上に努めています。

地域貢献活動として、バスケットボール教室等、本学のバスケットボール部員と一緒に小・中・高校生の育成・指導を行っています。また、全国のバスケットボール指導者の講習会講師を務めています。

2022年度は、狭山市役所新任課長研修・「モチベーションマネジメント」についてお話しする機会をいただきました。

2023年度も【With コロナ】を考慮した活動の在り方を探究し、【安心・安全】な教室・講習会運営に取り組んでいきます。

## 高等教育の哲学と実践方法 — 教養教育、市民性教育、生命倫理教育を中心として —



金子 章予

KANEKO, Akiyo

### キーワード

高等教育 (大学教育)  
 教養教育  
 市民性教育 (市民リーダーシップ教育)  
 生命倫理教育  
 コミュニケーション養成教育

サービス経営学部  
 健康福祉マネジメント学科  
 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 市民リーダーシップ、コミュニケーション力養成指導 (狭山市「市民講座」講師、さやま市民大学講座講師、等)
- 各種会議・講座運営

### プロフィール

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、国際機関事務局研究員、韓国中小企業振興公団産業カウンセラー、翻訳：ピシャ「生と死の生理学研究」中川久定・村上陽一郎責任編集『生と死—生命という宇宙』(『十八世紀叢書VII』) 国書刊行会、2020年所収。

### 産業界・地域へのメッセージ

個人と社会全体の幸福の実現のために一緒に力を合わせましょう!

### 研究・活動の内容

私の研究対象は、教育そのものです。とくに、教養教育、市民性教育、生命倫理教育を核として、高等教育(大学教育)の哲学と実践方法を研究しております。

教育学、経済学、心理学、哲学を中心とする学際的な研究教育を背景とし、教育とは何か、学校とは何か、大学とは何か、一人ひとりが幸福になるとともに社会全体が幸福になるための教育とはどのようなものか、ということについて考え、実践し、そしてその成果を社会に還元することに努めております。

### さやま市民大学授業風景



狭山市の皆さんと本学学生とともにグループワークを実施

## 英語授業学研究(学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化)、4技能の連動性と英語運用能力向上



鈴木 政浩

SUZUKI, Masahiro

### キーワード

英語授業学  
 技能連動  
 望ましい授業  
 音読音声指導  
 リメディアル教育

サービス経営学部  
 健康福祉マネジメント学科  
 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 英語音声指導
- 英語学習方略指導
- 評価分析

### プロフィール

桜美林大学国際人文社会科学(博士後期課程)単位取得満期退学。日本リメディアル教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会(JACET)他に所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

英語苦手意識克服と自信回復に関する研究を進めます。

### 研究・活動の内容

現在科研費を得て英語授業学研究を進めています。英語授業学研究とは授業の発展過程を枠組として提案し、その枠組の効果を検証する学問です。どのような授業が望ましいのかを授業の楽しさを交えながら枠組として提案し、その効果を検証しています。授業を成立させるための授業者の資質や指導内容をふまえた授業づくり、楽しい授業の要因を意識した授業づくり、異文化間コミュニケーションと自己像形成のための授業づくりと授業を発展させます。さらにその先に4技能の連動性を意識した指導により、英語運用能力を高める道筋を探っています。この望ましい授業の枠組の他、理想FL

(Foreign Language) 自己の考え方をふまえた枠組、語彙指導、音読発音指導における枠組等について提案をしながら、多くの英語教員に、名人の授業を可能にする研究と実践を進めています。

## 現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究



瀬沼 文彰

SENUMA, Fumiaki

### キーワード

コミュニケーション学

若者研究

笑いとユーモアの研究

現代社会論

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 現代社会のコミュニケーションの特徴と実践について
- 笑いとユーモアの日本社会の傾向と実践方法について
- 若者（若手社員）とコミュニケーションギャップを埋める

### プロフィール

東京経済大学コミュニケーション学研究科博士後期課程単位取得満期退学、日本笑い学会理事、『キャラ論』（スタジオセロ）、『ユーモア力の時代』（日本地域社会研究所）。

### 産業界・地域へのメッセージ

コミュニケーション学、笑いの研究で貢献したいです。

### 研究・活動の内容

私の研究は主に2つになります。1つ目は、コミュニケーションに関する研究です。特に、若い世代のコミュニケーションに着目し、彼らのコミュニケーションの特徴や人間関係についてフィールドワークを行っています。具体的には、若者たちが頻繁に使用することばの特徴の整理、そのことばの背後にある意味や社会について調査しています。また、個人の性格や特徴を表すキャラ（キャラクター）のコミュニケーションについて継続的に研究を行っています。これらの研究をベースに、コミュニケーションの世代間ギャップを埋めるための処方箋の提案などで地域や様々な組織に貢献したいです。

2つ目は、笑いとユーモアの研究です。私自身は、大学の教員になる前に、大手芸能プロダクションにて3年間、実践者としてお笑い芸人をしていました。その経験を活かし、様々な場での笑いの作り方について考えています。楽しさが様々な場で求められる現代社会には、笑いの作り方は地域にも組織にもお役に立てることだと思っています。また、フィールドワークを通し、若者たちがどんな人を面白い人と考えているか、笑いの作られ方、メディアとの関係、愛想笑いの意味や社会背景、笑いや笑わせるコミュニケーションが重視される社会背景などについて研究しています。

## ホスピタリティ教育—AI時代に生き残る人とは



宮島 健次

MIYAJIMA, Kenji

### キーワード

人材育成

ホスピタリティ教育

リーダーシップ

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 人材育成の方法、カリキュラム等
- 新人研修や社員研修におけるホスピタリティ教育
- 若い人材との良好な付き合い方

### プロフィール

日本大学大学院文学研究科博士後期課程教育学専攻満期退学。国際学修士。専門は比較教育学（イギリス）。所属学会は日本比較教育学会、日英教育学会等。

### 産業界・地域へのメッセージ

「人は城」。社員を大切に作る組織でありましょう。

### 研究・活動の内容

比較教育学を専門としており、これまでにイギリスのパブリック・スクールなどのエリート教育や大学入試制度について研究してきました。そこで得られた知見は、たとえばリーダーシップや人心掌握、ガバナンスの方法として、大学での教育実践に活かされています。

教育学と聞くと多くの方が「学校の先生のための学問でしょう」と言います。しかし、これは誤解です。教育学とは、人とはどういうものか（心理学）、人としてどうあるべきか（倫理学）を総合した学問であり、人生をどのように生きたいのか（哲学）を追求・実践する学問です。いわば「人間学」

ですから、すべての人に関わる学問ですし、対人関係全般に通用する学問であるともいえるでしょう。私自身、以上のことを常に意識し、本学ではホスピタリティをいかに教育するかといった講義科目に加え、ものの考え方や発想法、パフォーマンス・マネジメントの方法に特に重点を置いて指導しています。

現在は、AI時代における人間教育のあり方全般に興味があります。これからの時代は、これまでの考え方、方式がまったく通用しない時代となるでしょう。ではどうしたらいいのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

# 観光・まちづくり

## 長寿時代を生きる私たちの社会とのつながりと暮らし



**菅原 育子**  
SUGAWARA, Ikuko

### キーワード

社会関係

就労と社会参加

幸福感・ウェルビーイング

高齢社会

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 壮年・シニア世代の就労や社会参加の促進とその効果
- 超高齢社会の課題を解決する地域活動支援
- ウェルビーイングの研究と実践

### プロフィール

東京大学大学院人文社会系研究科単位取得退学。博士（社会心理学）。東京大学社会科学研究所助教、東京大学高齢社会総合研究機構特任講師等を経て、2021年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

変化する社会の課題発見と解決に、共に取り組みましょう。

### 研究・活動の内容

私は、社会の高齢化、そして人生の長命化によって、人と社会とのつながりに生じる様々な課題や可能性に関心を持って、研究・活動をしております。これまで、少子高齢化が進む地域や、高齢者の就労・社会参加促進に関わっている組織・団体などと一緒に、意識調査の実施、まちづくり活動支援等に関わってきました。

私たちは、家族、友人、学校、仕事、地域活動など、様々な形で、日々社会と関わっています。これらの社会関係や社会参加は、私たちが健康で豊かな人生を送る上でとても大きな役割を持っています。近年、何歳になっても生涯現役で働き

社会参加しようという動きがありますが、どんな形で働いたり、社会参加するのが私たちにとって本当に幸せなのでしょう。また、生涯現役で生き生きと暮らし続けられるために、私たち自身はどんな心がけをすればいいのか、どんな技術が役立つのか、また企業や地域社会はどんな環境を整えればいいのか、答えは一つではないでしょう。様々な考え、世代、立場の人が集まって、みんなでつくっていく必要があると考えています。

私たちの暮らしをより良く豊かにするために、みんなで知恵や経験を持ち寄って、解決する活動に関心を持っています。そのような場をつくり、活動が出来たら嬉しいです。

## 地域社会における異文化共在



**田辺 忠史**  
TANABE, Tadashi

### キーワード

地域社会  
エスニシティ  
宗教  
共在  
雇用慣行・制度

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 社会調査：調査票調査・聞き取り調査・観察調査など
- 地域における異文化共在：  
世代やエスニシティの異なる人々といかに共在するか

### プロフィール

上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。質的な社会調査を主なツールとしての文化研究。所属学会は「日本社会学会」「日本スキー学会」「スポーツ社会学会」「スポーツ産業学会」。

### 産業界・地域へのメッセージ

構成員が多様化する地域社会の問題を一緒に考えませんか。

### 研究・活動の内容

「意味の体系＝文化」とそうした体系のもとで「わたしが他者（社会）とどう関わるか、どうしてそのような関わり方をするのか、どうしてそんな関わり方しか許されないのか」を考えています。したがって、研究対象は多岐にわたりますが、とくに地域社会における「共在」を考えています。

高齢化の進展、外国人の増加といった地域の人口構造の変化は、地域の変貌を促しているのみならず、地域の魅力を阻害する可能性をも含んでいます。外国人労働者は、現状では、低賃金で不安定な就労に従事しており、このことが地域の産業構造を固定化する可能性を含んでおり、若者にとって

魅力のないものになり地域からの流出の可能性も考えられます。人口減少、高齢化の進展を引き起こすという悪循環やコストの増加も考えられます。

また、外国人労働者の増加は、日常生活における問題、教育の問題、宗教上の問題など地域社会に対して様々な影響を与えます。しかし同時に今まで見られなかった「文化」により「カラフル」で魅力的な地域社会になる可能性があります。エスニシティの異なる他者との「共在」が研究のテーマです。

## ホテルのハード・ソフト・ヒューマン



**富樫 文予**  
TOGASHI, Fumiyo

### キーワード

サービスとホスピタリティ  
ホテルのブランディング  
ホテルの組織と人材育成  
日本のおもてなし、旅館とホテル  
日本のホテル史と帝国ホテル

サービス経営学部  
サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 言葉遣い・電話応対に関する指導
- ホテルのおもてなし、人材育成に関する事項

### プロフィール

1985年 跡見学園女子大学卒業、(株)帝国ホテル入社、2015年 ザ・クレストホテル柏総支配人室長、2018年より現職。ホテル・マネジメント技能検定委員、日本国際観光学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

大学もホテルも、地域とともに存在し発展します。

### 研究・活動の内容

東京五輪招致のプレゼンで、意図的に、印象的に使用された「おもてなし」。サービスという概念しかなかった時代から、日本のサービス産業はホスピタリティ産業へと進化を遂げています。観光立国を目指し2019年の訪日外国人客数は3,000万人に到達。しかしながらその直後、観光業は多くのホスピタリティ産業同様、新型コロナウイルスとの未曾有の戦いを強いられることになりました。この3年間「集う」ことや「旅する」ことが、私たちの生活にどれ程潤いを与えていたかを実感したのではないのでしょうか。そしてまさに after コロナの今、観光業は日本の基幹産業として新たな発展を遂げるべ

く「おもてなし大国日本」の真価が問われることになるでしょう。

ホスピタリティ産業の代表とも称されるホテルですが、良いホテルの条件として「ハード」「ソフト」「ヒューマン」の3つが重要とされています。「ハード」とは建物や備品、「ソフト」はサービスの仕組みや組織、「ヒューマン」は気くばりやモチベーションなどです。緻密に組み立てられたホテルの「組織」、それらの仕事に携わる「人材の育成」の考察を軸として、重要な3要素が高品位にバランスよく保たれることで発揮される日本ならではの「おもてなし」が研究テーマです。

## 産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する



徳田 行延  
TOKUDA, Koen

### キーワード

就業力育成の協働学修型体験授業

産学官連携による地域貢献活動

Art & Social Engagement

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 産学官連携によるアート&ソーシャル・イベントの実施
- 【実績】 狭山市届出挙式（狭山市主催）その他
- サヤマdeシネマ（狭山市共催、東京国際映画祭後援）

### プロフィール

明治大学大学院商学研究科博士後期課程学位取得満期退学。西武文理大学元学長（2016年～2018年）。文部科学省大学生の就業力育成支援事業「経験値からのサービス産業就業力育成」（2011年～2013年）取組責任者。

### 産業界・地域へのメッセージ

アート&ソーシャル・エンゲージメントで未来を創る。

### 研究・活動の内容

21世紀はサービス（経験価値）の時代です。20世紀の所有に基づく交換経済も、効率性や合理性もすでに新しい形に変化してきています。ひとりの天才が社会をリードする時代でもなさそうです。21世紀はすべての人の思いや感動がそれぞれにクリエイティブ志向を持っていきます。多様な人たちとの協働により生まれる共感強く説得力のあるものとなり、社会は人々の創造性によってつくられていくアート作品になっていきます。こうした時代に対応するために、産学官によるプロジェクトにより新しいサービス価値の創造を行い、社会参加におけるホスピタリティの役割を探求しています。

### 学生主催による産学官イベント



「サヤマdeシネマ」狭山市共催  
東京国際映画祭後援



「届け出挙式」狭山市主催  
西武文理大学、ゼクシィ協力

## 産業連関表を用いた地域経済の課題解決



中谷 勇介  
NAKATANI, Yusuke

### キーワード

産業連関表

地域経済

経済効果

観光資源

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 小地域産業連関表の作成
- イベントや政策などによる経済効果の分析

### プロフィール

一橋大学大学院経済学研究科校規博士課程単修得退学。修士（経済学）・一橋大学経済研究所非常勤研究員、神奈川大学経済学部特任講師等を経て本学に着任。2015年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

経済学で地域の課題解決をサポートします。

### 研究・活動の内容

現在日本では、少子高齢化による人口減少、地方経済の衰退化、国家財政の赤字という大きな危機に直面しています。埼玉県は東京都という大都市に隣接しているという点でアドバンテージがあり、地方都市が抱える問題はまだまだ顕在化しているとはいえません。とはいえ、人口減少と高齢化の進展は今後徐々に地域経済へと影響を与えていきます。そこで重要になるのが、地域の現状を把握した上で地域の将来像をデザインし、それを実行していくという「地域力」です。この地域力をサポートしていく経済学のツールとなるのが産業連関分析です。産業連関分析は産業連関表を使った経

済分析であり、産業連関表とはレオンチェフが考案した産業間や消費者と産業とのモノやサービスの取引関係（流れ）を表す統計表です。これを市町村単位あるいは隣接する地域単位で作成し、それに基づいて地域経済を分析していくのが最近の私の研究です。市町村単位などの小地域をベースにした産業連関表を用いることで域内の経済構造が明らかになり、将来予測や経済波及効果を分析することが可能になります。2020年から（一社）埼玉県物産観光協会様より「埼玉県における観光の経済効果」に関する研究を委託され経済波及効果（金額、雇用効果、税収効果）の推計を行っています。

## 観光マーケティング、旅行者行動と新型コロナウイルスの観光への影響



**波瀟 郁代**  
NAMIGATA, Ikuyo

### キーワード

消費者行動  
インバウンド・アウトバウンド  
観光マーケティング  
世代研究・Z世代  
新型コロナと旅行・観光への影響

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 観光関連の意識調査
- 広報・メディアリレーションズ
- 観光ビジョン

### プロフィール

新潟大学教育学部卒業。(株)日本交通公社(JTB)入社。支店長、本社広報室長を経て2012年JTB総合研究所の設立に携わる。同社執行役員企画調査部長から23年4月に現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

観光を通じた地域活性化、ウエルビーイングな社会づくりを目指します。

### 研究・活動の内容

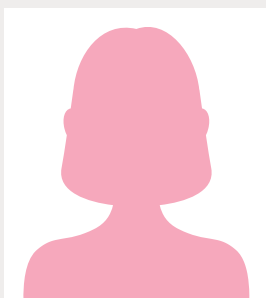
今年2023年4月に着任しました。設立時から在籍した前職のJTB研究総合所では、社会の変化が生活者の価値観や行動、旅行にもたらす影響をテーマに研究を重ねてきました。JTBが50年以上続けている「旅行動向見通し」にも15年間携わり、それぞれの調査研究はツーリズム全体の活性化にむけ公表してきました。

旅行・観光のあり方やスタイルは、社会構造の変化や技術革新、ライフスタイルや価値観の多様化など多くの要因が重なりあい、常に変化し続けています。観光関係者はその変化を察知し、旅行者の志向を把握しながら観光振興策を考え、

商品やサービスを提供しています。

2020年から続く新型コロナウイルスのパンデミックは、暮らしや経済活動に多大な影響を与える一方で、新しい行動や習慣、感染防止の習慣、リモートワークやオンライン会議を日常生活に広げ、暮らし方、働き方に変化をもたらしました。ここ10数年で観光振興の主体は中央から旅行者と接点を持つ地域へとシフトするとともに、コロナで構造的な社会課題が顕在化しています。様々な事象やデータをもとに、コロナ収束後のライフスタイルや観光のあり方はどこに向かうのか変化の芽と諸課題の解決に向けた研究を続けていきます。

## 持続可能な地方行政とまちづくり



**服部 映里**  
HATTORI, Eri

### キーワード

企業立地  
機能導入  
ニュータウン  
集合住宅・マンション管理  
大学と地域との連携

サービス経営学部  
サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 研究関心領域に関わる調査、共同研究、実践的取組

### プロフィール

慶應義塾大学法学部政治学科、東京大学法学部政治学研究所修士(法)課程修了。シンクタンク、デベ・ゼネコンでの調査業務。宅地建物取引主任者(現:宅建士)試験合格。

### 産業界・地域へのメッセージ

相互メリットある関係をめざしチャレンジしましょう!

### 研究・活動の内容

教育と校務の実務が日々の中心で、そこから離れた独立の研究活動となると休止状態です。とはいえ、調査・分析・考察の取組みが社会的に有用かつ個人的に面白くあればよいかという考えで働いています。大学赴任前は行政関係の調査業務が長く、その他、民間企業の市場調査も経験しました。

本来の研究関心としては、ニュータウン等に典型的な、長期にわたる地域の開発計画の管理にあり、取り巻く環境ともども変質していく開発対象を、長期にわたって計画調整しながら管理していくシステムをメインテーマとしています。具体的には、開発地区の関係者との間に、緩やかな目的共有を

もたらずコミュニケーションをいかに恒常的に構築できるかという現実的な方策です。

管理主体は開発の計画期中は事業者である公的機関等が一般的ですが、開発完了後の地区は事業者の権力構造から解放されるため、「管理機能をいかに打ち立てるか」という新たな課題が与えられます。その解は、地域特性に応じて様々となるはずですが、管理主体が実質不在なのに、トータルで管理されるべき対象というのは、非常に面白い研究対象です。同様の関心から、ここ数年は「マンション管理」が面白くなってきています。

## 観光インフラとしてのホスピタリティ&マナー教育の普及



服部 裕美子

HATTORI, Yumiko

### キーワード

ホスピタリティ

サービス

おもてなし

インバウンド

マナー教育

プロトコール研修

サービス経営学部

サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- インバウンドのおもてなしを考える
- 従業員のマナー&接遇研修
- 店舗・従業員のサービス評価

### プロフィール

上智大学大学院文学研究科修士課程卒業(教育学修士)。国際線客室乗務員として日本航空(株)に約10年間勤務。数多くの首相特別便等も担当し、要人接遇の経験を積んだ。日本国際観光学会・日本観光ホスピタリティ教育学会会員。

### 産業界・地域へのメッセージ

グローバル視点でサービスを評価できるのが強みです。

### 研究・活動の内容

日本人が自画自賛する「おもてなし」は、実はひとりよがりの自己満足にすぎない可能性が高いと指摘されています。

アフターコロナに予測される圧倒的な旅行需要の拡大に際し、日本が“目的地”として選ばれるための、あるいはリピーターを増やすための「おもてなし」のノウハウは、とにかく「心情的価値」のみに目が向けられがちであることは大きな問題であると捉えています。寧ろサービスにおける「機能的価値」にこそ、より多くの工夫と投資が必要であることを、グローバル・エアラインのサービス実績や評価との比較において考察しています。

### 「ホスピタリティ」の学びは現場から!



エアラインのホスピタリティ…「心情的価値」の最右翼はスタッフの笑顔



「機能的価値」の絶対的基盤は「安全的価値」と再認識。ゼミ生と羽田工場見学で

## 地域資源を活用した地域振興に関する研究



望月 政志

MOCHIZUKI, Masashi

### キーワード

地域資源

地域振興

農林水産業

フードビジネス

産地ブランド

サービス経営学部

サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 農林水産業分野の経営・経済問題
- 「食」や「観光」に関するアンケート調査
- 地域資源を活用した地域振興

### プロフィール

京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。博士(農学)。専門社会調査士。京都府農林水産技術センター任期付研究員、一橋大学経済研究所専任講師等を経て現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域資源の価値創出に貢献できればと思います。

### 研究・活動の内容

近年、少子高齢化の進行、過疎化問題、経済環境等の変化による地域間格差の拡大など、地方が置かれている状況は厳しく、多彩な地域資源を生かした新しい商品・産業の創出および既存産業の活性化は地域振興を図るうえで重要な課題となっています。そこで、農林水産物をはじめとする「食」や「観光」などに関連する地域資源を活用した地域振興をテーマに、特産品の価格形成要因や地域資源の持続的利用、農・漁業の経営問題、体験型ツーリズム等に関する経営・経済学的研究を行っています。

また、外国での日本産サーモンと他国産サーモンのブラン

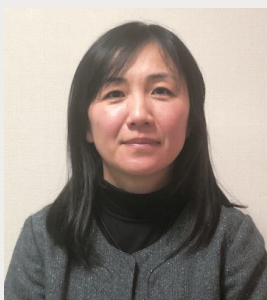
ド力の違いや水産物に対する外国人の購買行動を明らかにする研究、あるいはシンガポールにおける日本食レストランの需要とその決定要因を明らかにする研究など、海外における日本固有の地域資源(日本産水産物や日本食文化)に対する需要や購買行動に関する研究も行ってきました。

最近では研究の幅を広げ、これまで統計データの不足からあまり研究されてこなかった第二次世界大戦前後の日本の家計消費に関する研究にも携わっています。



# 子育て・ 障害者支援

## 精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について



石川 幸代  
ISHIKAWA, Yukiyo

### キーワード

精神保健  
精神看護  
精神障がいをもつ人  
精神障がいをもつ人の子ども  
精神障がいをもつ人の子育て支援

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 精神障がいをもつ人の地域生活支援について
- 精神障がいをもつ人の子育て支援について

### プロフィール

札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師、保健師。精神科病院にて看護師を経た後、大学にて看護学教育に従事。2019年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

全ての人が自分らしく生活できる社会を目指しましょう。

### 研究・活動の内容

これまでに精神科病院内外にて、精神障がいをもつ人が地域で生活するための支援に携わってきました。精神障がいをもつ人が地域の中で一生活者として暮らすためには、本人、家族の努力はもとより、それを支える力が必要です。それは病院からの医療支援のみではなく、地域の保健、福祉の支援、そしてそれらの連携が不可欠です。多くの人の理解と協力が必要となります。精神障がいをもつ人の頑張りと努力が理解され、一緒に協働できる社会を身近なところから目指していきたいと考えております。

また精神疾患の多くは慢性疾患です。病院での治療のみで

完結するのではなく、長くその病気とうまく付き合いながら生活していかなくてはなりません。近年は向精神薬の改良もあって、以前よりも多くの精神障がいをもつ人たちが子どもを生み育てるようになっております。病気を抱え、子育てをすることがとても困難であることは、誰もが予測できることですが、十分な支援を受けられているとはいえないのが現状です。これらの精神障がいをもちながら子育てを行っている人たちへの支援、そしてその子どもたちへの支援についても包括的に考えていきたいと思っております。

## 父親と育児に関する研究、産後ケアに関する研究



### キーワード

父親  
育児・育児支援  
出産  
母性  
看護教育

大賀 明子  
OHGA, Akiko

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 子育て・母乳育児に関する相談
- 小学生から大学生を対象にしたセクシュアリティ教育
- 狭山市・さやマーチ「産後ケア」リーフレット監修

### プロフィール

千葉大学看護学部卒、東京大学医学部付属助産婦学校卒、アドバンス助産師、山梨大学（看護学博士）。神奈川県立衛生短大、横浜市大を経て本学教授。母性衛生学会編集・幹事。NPO法人狭山保育サポートの会代表理事。ベトナム障害児者自立支援組織 NPO法人 v-heart 世話人。

### 産業界・地域へのメッセージ

男性から父親となり父親をやり父親になる支援をしたい。

### 研究・活動の内容

父親に関する研究では、男性が父親になっていくプロセスを明らかにすることを目的に、パートナーが妊娠中の男性から子どもが学童期にある男性を対象にインターネット調査の手法を採用して、父親として経験していることや認識に関する調査を行った。1,724名から得た回答により、横断的な結果をつなぎ合わせることで次のことが明らかになった。男性は妊婦健診に同行し、超音波検査で胎児画像を見ることなどで父親になることを実感し、パートナーを思いやることで関係性を深め、誕生による子どもの存在や子どもとの関わりで父親である自分を自覚し、子どもとの相互作用によって父親

である自分を実感していた。男性は、パートナーの妊娠を知り、妊娠期間にパートナーとの関係を深めながら、分娩を経て我が子と実際に出会い、子どもの成長とともに父親としての経験を重ねていくこと、つまり「父親をする」ことで「父親になっていく」。父親としての経験は、子どもに関心を向けることから始まる。その最初の育児行動として、子どもを抱くことには大きな意味があると考えられた。

## 高齢難聴患者を支援するためのピアサポート研修の開発



### キーワード

高齢難聴者  
難聴対策  
補聴器のフォローアップ  
高齢者ピアサポート  
地域のネットワーク

奥山 陽子  
OKUYAMA, Yoko

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 高齢者看護
- ホリスティック医療
- 国際看護

### プロフィール

慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院卒業（専修学校）看護師免許取得後、Salem State University, the degree of Bachelor of Science（学位）取得。学校法人花田学園（日本鍼灸医療専門学校）を卒業（鍼師・灸師免許）取得。日本の病院、アメリカの研究室、シンガポールSOS勤務後帰国。西武文理大学看護学部非常勤実習助手を経て、桜美林大学大学院老年学研究科老年学専攻（博士前期課程）修了、老年学（修士）取得。日本医療科学大学保健医療学部看護学科、助教・講師として勤務、2022年4月より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域で生活する高齢難聴者をサポートするネットワーク体制の整備に取り組んでいきましょう。

### 研究・活動の内容

難聴は高齢者の身体的・精神的・社会的機能に影響を及ぼします。軽度の聴力低下でも日常生活動作やうつ・QOLに影響を与え、近年の研究では、難聴と認知機能の低下との関連性も示唆されています。また、補聴器装用は認知機能低下を抑制できる可能性があることが報告されています。日本における補聴器装用者率は海外に比べて低く、日常生活に支障をきたしていることが予測されています。実際に購入しても使用時間が1時間未満であり、使用せずにしまい込んでいるケースが多いです。補聴器装用を継続的に使用されるためには、それぞれの個人のニーズにあったきめ細やかな

サポートが必要とされます。耳鼻咽喉科医師との相談、適切な補聴器の選択や操作方法の相談や訪問活動などは、補聴器から離脱することなく継続的に使用でき、聴力だけでなく、うつ予防などの認知機能を含む心理的側面への効果・家族や地域との交流を促進し、社会的側面により良い効果をもたらすと考えられています。今後、地域に在住する高齢難聴者の早期受診の促しや補聴器の特性などのきめ細かい説明・実施（支援）を促進し、視察したデンマークのサポート体制をモデルに地域で生活する高齢難聴者をサポートするネットワーク体制の整備に取り組んでいきたいと考えています。

## 精神面の困難に直面した人への対話的支援



笠井 翔太  
KASAI, Shota

### キーワード

オープンダイアログ  
リフレクティング  
ナラティブ・アプローチ  
語り  
対話実践

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 精神面の困難に直面した人との対話的支援に関する相談
- 精神看護学実習に関する実習指導への助言

### プロフィール

看護学修士取得後、精神科看護師を経験し現在に至る。看護科学学会、看護教育学学会、精神保健看護学会、日本心理学会、オープンダイアログネットワークジャパンに所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

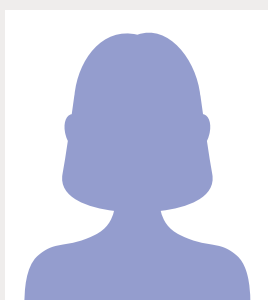
精神面の困難に直面した人たちの一人ひとりの声が尊重され、地域で生活できるよう応援しています。

### 研究・活動の内容

新型コロナウイルス (covid-19) の流行で、日本においても感染者が増加し、2020年4月には新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、国民は就業や学業などの活動制限や自宅での自粛生活を余儀無くされた。緊急事態宣言が解除され、年月が経過した現在でも、元の生活様式に戻ったとは言えず、むしろウィズコロナ時代の家族以外の外部の人と距離を置いた「新しい生活様式」が政府から推奨され、それを遵守せざるを得ない状況に陥っている。従って、親世代のコロナ禍によるストレスは依然継続していると考えられる。そこで乳児から小学校入学前の子をも

つ親の語りから、コロナ禍がもたらす子育て期にある家族のストーリーを明らかにすることを目的とし、インタビュー調査を行った。ナラティブ分析を行った結果、子育て期にある家族は共に協力し合い、様々な生活様式の変化に応じようと折り合いをつけていく各家族の様相が明らかになった。コロナ禍の影響を受け、各家族のストーリーが多様化していく中で、家族それぞれの語りを聴き、顕在化されていないニーズを見出し、個々の家族に合わせた支援や様々な支援を家族が主体的に選択できる仕組みづくりなどを検討していくことの重要性が示唆された。

## 母乳育児を中心とした歴史的変遷に関する研究



柏木 由美  
KASHIWAGI, Yumi

### キーワード

子育て  
母乳育児

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 子育て・母乳育児に関連する相談

### プロフィール

看護師・助産師。病棟勤務を経て、新生児訪問事業などの地域活動を通じ、2010年に開業し、母乳育児相談を中心に100人以上の母子に関わる。2022年放送大学大学院文化科学研究科修士課程修了 2022年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

子育てを中心に地域の健康を支援していきたいです。

### 研究・活動の内容

母子を中心とした環境は、日々変化しています。このような中で助産師として開業し、多くの母子に関わってきました。母乳育児の相談内容は、家庭内のこと、職場のこと、親子関係、近所付き合い、世の中のことなど多種多様でした。母親が色々な話を話せることができる環境は大切であり、子育て時期には必要不可欠な環境です。しかし現在は、他人の家に入ることへの敷居が高くなっています。そのため身近な専門職による関わりは重要になってきていると感じています。

乳幼児期の問題を解決するヒントを江戸時代の子育てをはじめ過去の子育てに求める研究をしています。フィールド

ワークとして、戦争を体験した母親たちの子育て経験を集めています。忘れ去られた子育て方法にも、形を変えて現代につながっているものがあると思っています。

## 障害福祉事業所における人事考課の課題について



川口 真実

KAWAGUCHI, Mami

### キーワード

人材育成  
障害福祉  
多職種連携  
ケアマネジメント

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 障害児・者に関する支援について  
(個別支援計画や家族への支援等)
- 障害事業所への職員研修

### プロフィール

文京学院大学にて人間学修士を修了。重症心身障害児施設や生活介護の支援を経て、介護福祉士や社会福祉士の専門職養成に携わる。社会福祉士、介護福祉士を取得している。

### 産業界・地域へのメッセージ

社会に還元できるような常に実践したいと思います。

### 研究・活動の内容

障害児・者分野の福祉の中で、自身が社会資源の一つとして、クライアントへの支援や地域社会への還元を重視しながら活動しています。

その一環として、職員研修に携わり、ケアマネジメントの観点において個別支援計画の考え方を実践的に学ぶ研修等を行いました。他にも、事例をとおして共通理解を図ることや、実際のケア場面に例に、ケアに関する考え方について現場の職員と一緒に検討し、より良い支援のあり方を追求することを努めています。

また、社会福祉法人の理事の経験から、実践現場では医療

的ケア児に対する支援や、保護者の方々との相談場面等においても実践について、その内容を教育へ還元することにも努めております。

さらに、上記研修でつながった他法人とも連携を図り、利用者支援へもつなげることができています。

## 高度実践看護の追究



長坂 桂子

NAGASAKA, Keiko

### キーワード

高度実践看護  
周産期メンタルヘルス  
妊婦の腰痛  
DV 被害者支援  
外国人妊産婦支援・文化ケア

看護学部 看護学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 周産期メンタルヘルス
- ライフサイクルとキャリア形成
- 高度実践看護

### プロフィール

千葉大学看護学部卒業、兵庫県立大学大学院看護学研究科修了、博士(看護学)。NTT東日本関東病院等を経て2022年より現職。母性看護専門看護師。日本母性看護学会理事。

### 産業界・地域へのメッセージ

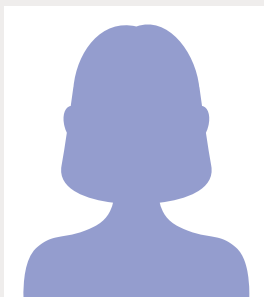
地域の皆様と、安心子育て環境づくりに取り組みたい！

### 研究・活動の内容

臨床では、安心・安全、そしてウェルビーイングの実装に取り組んできました。母性看護専門看護師、博士号をもつ臨床家として、女性やご家族のお困りごとに耳を傾け、組織の中で多職種の方と協力しながら、DV被害者支援、メンタルヘルスケア、外国人ケア、産後ケア、などの体制を整えてきました。地域では、NPO活動を行なっています。

これらの取り組みは、市民の皆様向けの情報発信や、研究成果としても還元しています。埼玉の地で、皆様と一緒に、暮らしをより豊かにする実装研究に取り組みたいです。

## 子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康



茂手木 明美

MOTEGI, Akemi

### キーワード

子どもの健康と生活習慣  
子どもの事故防止  
子どもの虐待防止と家族支援  
発達障害

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 子どもの生活習慣と子育て、病気への対応
- 子どもの成長発達と事故防止
- 子育てをめぐる家族支援

### プロフィール

山梨大学大学院医学工学総合教育部博士課程人間環境医工学修了、医科学博士（山梨大学）、看護学修士（山梨医科大学）。看護師、保育士。

### 産業界・地域へのメッセージ

子どもが健やかに育つための活動に取り組んでいます。

### 研究・活動の内容

育児の現状からみた家族の悩みや課題、職場環境の社会的理解のあり方に対する調査研究を行っています。その研究を基盤とし、子育て期の家族を支えるシステムづくりに関する検討を重ねています。少子化が進み、核家族がさらに増加していくことが予測される今、子育て環境にはさまざまな課題が生じています。子どもとのかかわり・育て方に迷うご家族に対する支援を通して、ご家族へのサポート、加えて児童虐待防止のためにできることについて検討しています。

次に、人の生涯にわたる健康と生活習慣には密接な関係があることから、生活リズム、睡眠、食事、運動など基本的な

生活習慣を確立していく子ども時代の重要性について調べています。近年、我が国のライフスタイルは変容し、大人だけでなく、子どもの生活も大きく変化してきています。子どもが心身ともに健康に成長発達していくことに寄与できるよう、医療・看護のみならず、保育や学校教育の先生方と連携し、子どもの生活に関する研究に取り組んでいます。

また、最近では発達障害やそのグレーゾーンとも考えられるお子さんに関する相談等が増えてきました。そのため、発達障害について周囲や地域の皆さんに正しく理解していただくための取り組みやご家族への支援についても検討しています。

### Column 02

## 「環境団体交流会」で 産学連携PBL授業の取組を発表しました

3月11日にさやま環境市民ネットワーク主催「環境団体交流会」が市民センター・コミュニティホールで開催され、本学の教員である甘泉教授と学生（1年生）1名が登壇し、総合演習Ⅰ（産学連携PBL）で取り組んだ内容を発表しました。

この発表は、主催者からの依頼によるもので、第1部の話題提供のうちの一つとして行われたものです。

この授業では、国連が進めているSDGsの17の目標を学ぶことから始め、それぞれの目標の求めることを学び、見開き2ページでSDGsのそれぞれの目標を解説する冊子を作成しました。この冊子ではそれぞれの目標を皆にわかりやすく知ってもらうため具体的な事例を4コマ

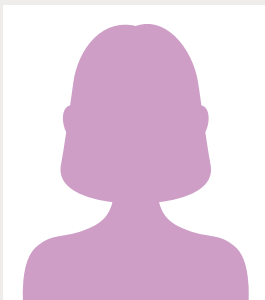
漫画で紹介しています。

当日は、この取り組みを報告し、会場内からは、若い学生がSDGsを学んでいることに関心が寄せられ、続く第2部の意見交換会では、多くの質問を学生と甘泉教授にいただきました。



# 健康づくり

## 労働者のストレスマネジメント、レジリエンス向上



伊藤 千春  
ITO, Chiharu

### キーワード

労働者  
ストレスマネジメント  
レジリエンス  
セルフケア  
ヘルスリテラシー

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 地域住民への健康講話
- 企業従業員への健康講話

### プロフィール

臨床経験、行政保健師、産業保健師を経て現職に至る。

学位：ヒューマン・ケア科学博士（筑波大学）

資格：看護師免許、保健師免許、養護教諭2種免許

所属学会：日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域貢献活動として講演を行い住民の健康増進を支援していきたい。

### 研究・活動の内容

労働者のストレスやレジリエンスに関する研究を行っています。管理職や経営者は一般職に比べて長時間労働であり、精神的な負担や自殺リスクが高いことが示されています。2015年12月よりストレスチェック制度が導入されましたが、従業員50人未満の事業場の実施は努力義務であり、メンタルヘルスの実態がとらえにくい現状にあります。また、経営者はストレスチェックの対象外であり、特徴的なストレスについて本邦における報告も少ないため、近年は中小企業経営者のストレスに着目した研究を行っています。

また、逆境や困難から立ち直る力であるレジリエンスと精

神健康度との関係についても深く関心を持っており、今後も労働者のストレスの心理社会的要因に着目していきたいと考えています。

また、健康無関心層の行動変容に影響する要因を検討するために、地域住民のヘルスリテラシーを調査し、現状と課題を明らかにすることに取り組んでいます。

今後も労働者のストレスマネジメント支援や地域住民の健康づくりの一助となる研究を継続していきたいと考えています。

## 健康の視点から誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える



尾崎 美恵子

OZAKI, Mieko

### キーワード

地域の健康づくり・介護予防

地域における虐待予防

多職種連携

学生の地域活動支援

看護学部

看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 地域の健康づくり・介護予防に関わる事項

### プロフィール

明星大学大学院人文学研究科修了（教育学修士）。看護師、保健師、精神保健福祉士、介護支援専門員免許取得。行政保健師として子育て支援、健康維持・増進、高齢・障害福祉業務等に従事し、短期大学講師を経て2013年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指します。

### 研究・活動の内容

少子高齢化、核家族化、価値観の多様化やコミュニティの変化により、地域で孤立する人が増加しています。また、あらゆる年代の方、様々な健康レベルにある方への虐待も増加傾向にあり、深刻な社会問題になっています。その中でも子どもに対する虐待は、子どもの心身の成長や人格形成に重大な影響を与えるとともに次世代に引き継がれる危険性があり、親子に関わる専門職者は早期に虐待状況を捉え支援が必要な親の把握をする必要があると考えられています。

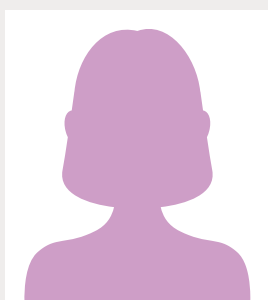
子どもの虐待予防には機動性の高い多職種連携が不可欠と考え、その課題と対策についての研究に取り組んでいます。

また、地域の方々と共に楽しみながらの健康づくり実践を目指し、学生と共に地域のイベントに参加しています。

看護職は、病を抱えて傷ついた人に寄り添い、その人が自分らしく生活していくことを支える職業です。学生は療養生活を送っている方たちとの出会いが多く、地域の方たちとの活動は貴重な財産です。

様々な健康づくり活動を通じて、地域で活躍するシニアの方々、小・中学生等と多世代交流しながらお互いを高めあい、地域の方々の仲間づくりや生きがいづくりに貢献できるよう日々模索しています。

## 「生活世界に導かれたケア」の可能性



齊藤 美恵

SAITO, Mie

### キーワード

看護教育

在宅看護

自宅での看とり

看護学部

看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 在宅におけるホスピス・緩和ケア

### プロフィール

現象学に基盤を置いた生活世界を手がかりに、人が良く生きることを支える看護のあり方について学びつつ研究しています。

### 産業界・地域へのメッセージ

人がより良く生きることを支えるため、皆さまとともに考えつつ具体的な実践を積み重ねられるよう努めて参ります。

### 研究・活動の内容

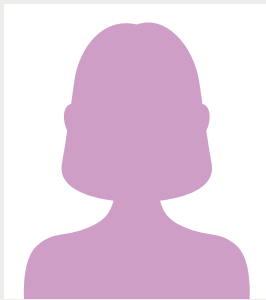
在宅という「生活の場」は、療養者や家族にとって生活の質（QOL）に深く関わるのですが、あまりにも自明であるがゆえ、その意味について十分に考察されてはいないように思われます。そこで私は、現象学的視座に基づく「生活世界」あるいは「世界内存在」という概念を手掛かりに、療養者や家族にとって「生活の場」が持つ意味および、そこに「住まうこと」の意味を考察すると同時に、それらが在宅看護をどのように方向付けるのか明らかにしたいと考えています。

くわえて、スウェーデンの看護学研究者らが提唱する「生

活世界」という概念を用いて、我が国でもケアの基本的な考え方とみなされている「患者中心」について考察しつつ、「患者中心のケア」とは具体的にいかなることなのか明らかにしたいと考えています。

誰もがそれぞれの「生活の場」においてその人を「中心」とするケアを受けることができ、より良い人生をおくれることを、看護教育の場から目指しています。

## 人々の健康を支える健康診査、保健指導について



霜山 薫  
SHIMOYAMA, Kaori

### キーワード

公衆衛生看護

健康診査

保健指導

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 健康診査、保健指導の評価

### プロフィール

看護大学を卒業後、行政保健師・産業保健師を経験し埼玉県立大学大学院を修了。修士(看護学)。看護系大学勤務を経て2023年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

時にはご自身の体についてチェックする機会を。

### 研究・活動の内容

人生100歳時代と言われるようになり、健康寿命の延伸が重要になってきました。

一般的に健康診査は自身の健康状態を知る、自覚症状の有無にかかわらず病気を発見する、生活習慣を振り返る契機とするなどの役割がありますが、集団的にはそれらのデータを用いて健康づくりにも役立てられつつあります。

特定健康診査においては受診するだけでなく、好ましい生活習慣を身につけてそれを維持することや生活習慣の改善をも目指しています。なかでも特定保健指導に携わる保健師は生活習慣病や生活習慣改善に必要な知識はもちろん、対象者

自身が行動変容できそうな目標と一緒に立て、実施し続けられるようサポートしています。

現在は、良くも悪くも健康に関する情報があふれており、それらは容易に調べることも手に入れることもできる状況にありますが、知識と自身に合った行動を結び付ける、食生活・運動習慣等を維持するのは容易なことではないと実感している方も多いのではないのでしょうか？

このような、知識としては理解しても行動に移せない状況に対し保健指導がどのように役立つかなどを模索しています。

## 社会における将来を見据えた専門職（看護師）の活用



高橋 幸子  
TAKAHASHI, Sachiko

### キーワード

看護政策

自治体危機管理

災害看護

クリティカルケア

SDGs

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 政策過程
- 救急医療に関する実践・制度
- 看護職を活かしたキャリア形成

### プロフィール

看護師と臨床で働く中で、政策に興味を持ち、明治大学公共政策学修士・明治大学政治学修士取得、明治大学政治学博士で学ぶ。帝京大学、目白大学を経て2023年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

人間にも地球にも優しい幅広い分野で活躍できる看護師の育成を。

### 研究・活動の内容

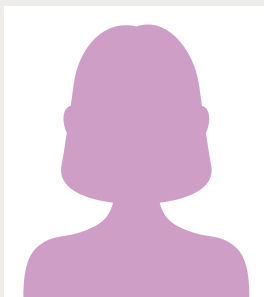
政策と聞いても身近に感じずまた敷居の高いものとして、興味をもてない人が多いと思います。しかし、生活は様々な政策をもとにして成り立っています。医療における臨床や教育の現場は、一生懸命働いているがゆえに不満を持っている人がいます。「常に人が足りない」「これは専門職の仕事？」等等……。私は政策を活用して人々の健康に関する貢献や専門職が自らの能力を発揮できることに目を向けています。国の政策にたよらず、基礎自治体が看護師を専門職として活用できる政策に関する研究を行っております。また、災害時などの危機管理体制に看護専門職を

取り入れるシステム作りについても重要な課題です。看護職に従事する人達が看護政策に興味を持ち、自ら発信できることを望んでおります。

最近ではSDGsと看護教育に関しても、研究を進めております。政策は社会状況を察知しながら考えていくことが必要です。世界が取り組んでいるSDGsは看護教育で既に行われている内容も多くあります。そのことを教員自ら意識し国が取り組んでいる政策に加担していることを自覚することも皆さんが政策を身近に感じる1歩だと思って活動しております。



## 成人期における全人的看護の研究



藤本 千尋

FUJIMOTO, Chihiro

### キーワード

成人  
慢性期  
終末期  
ヘルスプロモーション  
ホリスティック

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 看護におけるアロマセラピーの活用
- 成人期におけるセルフケアの創出

### プロフィール

横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻修了、修士（看護学）。看護師、看護学校教員を経て、2021年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

多様化する社会において、成人が自分らしく生きていけるよう、全人的に支えます。

### 研究・活動の内容

社会活動が最も豊かになる成人期において、健康問題が生じ、生活の変容を余儀なくされた場合、対象はどうやってその後も続く人生に向き合っていくのか、これまで通り喜びや楽しみを享受できるよう、身体・心理・社会・スピリチュアルのあらゆる側面に対して働きかけることが大切です。人間は自然環境との調和の中で生きる生命体ですので、対象に合わせていくこと、出来る限り日常にあるものや自然産物を活用していきながら働きかけることを心がけています。その研究の一つとして、アロマセラピーを活用した研究を行い、科学的根拠をもった効果が実証されてきています。

患者さんにあったケアの創出に至るには、まず現状において、対象がどのような疾患で何を苦痛と感じ、生活の中ではどのような解決を求めているのかを把握することが第一歩となります。社会そのものが多様化する中で、創出できるケアは無量大にあります。成人期において自分らしく生きていけるよう、その支援の研究を今後も続けていきたいと思えます。

## Column 03

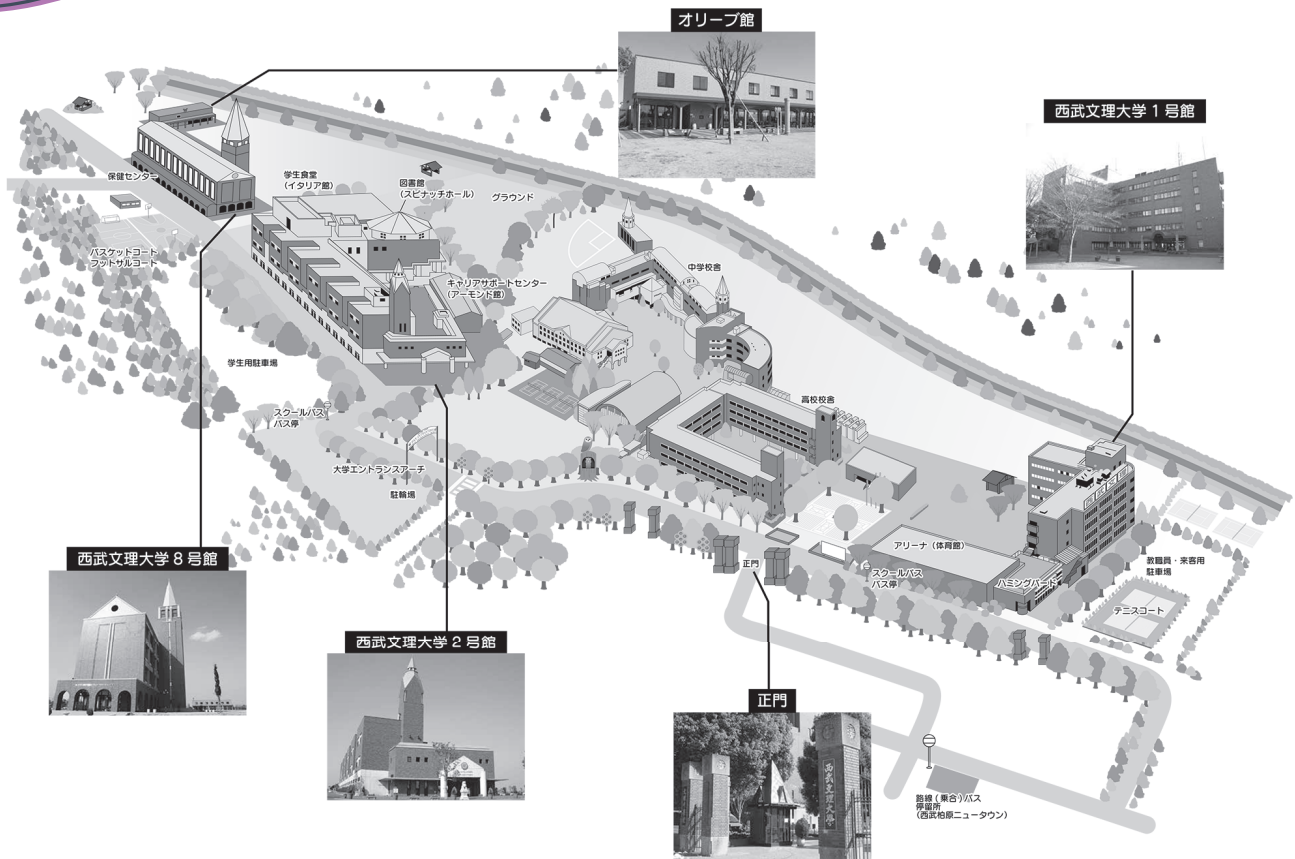
# 学生企画の講演会を開催しました!!

講演会「見えない障害 ～高次脳機能障害を知っていますか?～」を社会福祉士サブコース学生の企画・運営により開催しました。この講演会は、3年生の社会福祉士の実習で出会った“高次脳機能障害家族の会さやま”の方からの「大学でも知ってもらえる機会ができないか?」との学生への声かけがきっかけで行われました。

学生は、家族会の方のニーズをくみ取り、『見えない障害』とされている高次脳機能障害を身近に感じてもらうにはどうしたらよいかを考え、チラシ作成も含めてすべて自分たちの手で企画しました。

当日は、48人の方々（Zoom参加者含む）に参加いただき、高次脳機能障害者の支援を実践されている作業療法士や当事者とご家族の方からそれぞれお話をいただきました。その後、登壇者も交え参加者との交流会も実施し、さらに内容を深める機会となりました。





入間川沿いの  
緑豊かなキャンパス



西武新宿線新狭山駅から国道16号線をまたいで西へ約2キロ。入間川河畔に面し緑の樹木に囲まれた学園キャンパスは、南北へ1キロ近くに及びます。大学校舎は、南から順に短大開学時から歴史を積み重ねてきた1号館、高校・中学校舎を経て、大学総合受付がある2号館へと至ります。共にサービス経営学部の中心施設です。その先にそびえるのが看護学部の8号館、通称「川越キャンパス」。授業の合間には、両学部の学生たちが楽しく交流しています。三つの建物にはそれぞれに教員の研究室があり、いつでも学生が相談できる環境を用意しています。



企業・経営支援

医療・福祉専門職支援

教育・スポーツ・生涯学習

観光・まちづくり

子育て・障害者支援

健康づくり

## 産学官連携の推進

西武文理大学は研究機関として、共同研究や研究指導等を通じて知見を提供する取組を行っています。  
また教育機関として、教育プログラムの開発やPBL（問題解決型学習）の実施において産業界や行政のご協力をいただくなど、多彩な産学官連携活動を行っています。

### 1. 締結している協定

平成 19 年 産学連携協定：埼玉りそな銀行

平成 19 年 産学連携協定：武蔵野銀行

平成 23 年 産学連携協定：飯能信用金庫

平成 23 年 連携基本協定：狭山市

令和 元年 連携基本協定：株式会社ムーミン物語

令和 元年 連携基本協定：長野県飯山市・一般社団法人信州いいやま観光局・株式会社フジすまいるファーム

令和 3 年 包括連携協定：一般社団法人埼玉県物産観光協会

### 2. 連携活動事例

平成27年度 飯能信用金庫「寄付講座」導入

(取組) サービス経営学部開講科目「アントレプレナーシップ」他

平成29年度 狭山市・健康長寿埼玉モデル「おりびい健康マイレージ事業」

～令和元年度 (取組) 看護学部教員による健康講座や身体測定会の実施及び効果検証への参画

平成30年度 埼玉県看護協会第三支部「看護研究の実際」事業

(取組) 看護学部教員による講義・演習「看護研究の実際・応用編」の実施

平成30年度～ 狭山市・NPO法人さやま協働ネット「さやま市民大学」

(取組) 西武文理大学連携講座として、健康をテーマとした講座の監修・合同授業等

令和元年度 総合演習I(産学連携PBL)授業

～令和4年度 (取組) 地元企業や行政などから提示された課題に対する学生提案型の授業を実施

令和元年度 狭山市内中小企業へのアンケート

(取組) 産学官連携をテーマに狭山市内中小企業を対象としたアンケート調査を

狭山市及び狭山商工会議所の協力により実施

令和2年度 サービスラーニング(地域イベント・ボランティア)授業

～令和3年度 (取組) 前後期を通じ地域の商店街の活性化策など複数のプロジェクトに分かれて検討

令和2年度 サービスイノベーションフォーラム

「地域における『社会システム産業』を考える～デジタルを活用しての狭山チャレンジ～」

(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施

令和3年度 サービスイノベーションフォーラム「中小企業にとってのSDGs(持続可能な開発目標)の意義」

(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施

令和4年度 サービスイノベーションフォーラム「物産観光による地域振興」

(取組) 一般社団法人埼玉県物産観光協会の共催により実施

### 3. 文部科学省採択事業

平成 19-21 年度 研究拠点形成費等補助金

(産学連携による実践型人材育成事業－サービス・イノベーション人材－)

平成 21-23 年度 大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)

平成 22-23 年度 大学生の就業力育成支援事業

平成 24-27 年度 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

## 共同研究等の推進

### 1. 共同研究

民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。民間等から研究者及び研究経費等を受け入れ、本学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について共同・分担して行う研究です。

共同研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

### 2. 受託研究

大学の教職員が外部からの委託を受けて、契約に基づき研究を行いその成果を委託者に報告する制度です。研究に必要な経費は委託者に負担していただきます。受託研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

### 3. 奨学寄附金

本学において、民間企業、団体、個人等から学術研究に要する経費等、教育研究の奨励を目的とする経費に充てるものとして受入れる寄附金です。

## お問い合わせ先

本誌掲載の大学教職員に興味関心のある方、  
大学連携にご興味のある方は下記までお気軽にお問い合わせください。

### 西武文理大学 総務課（研究支援担当）

mail : soumu@bunri-c.ac.jp

TEL : 04-2954-7575

FAX : 04-2954-7511

H P : <https://www.bunri-c.ac.jp/about/research-funds.html>

### 西武文理大学 サービスイノベーションセンター

mail : sic@bunri-c.ac.jp

TEL・FAX : 04-2909-2229

# INDEX

研究シーズ名前検索

## あ

浅石 梨沙 あさいしりさ 10

## い

石川 幸代 いしかわ ゆきよ 32

伊藤 千春 いとう ちはる 37

井上 寛隆 いのうえ ひろたか 16

岩瀬 忠篤 いわせ ただあつ 11

## お

大賀 明子 おおが あきこ 33

岡田 信子 おかだ のぶこ 17

奥山 陽子 おくやま ようこ 33

尾崎 美恵子 おざき みえこ 38

## か

影山 優子 かげやま ゆうこ 17

笠井 翔太 かさい しょうた 34

柏木 由美 かしわぎ ゆみ 34

加藤 三彦 かとう みつひこ 24

金澤 良昭 かなざわ よしあき 11

金子 章予 かねこ あきよ 25

神庭 純子 かみに わじゅんこ 18

川口 真実 かわぐち まみ 35

甘泉 瑞応 かんせん みずお 12

## く

黒崎 宗宏 くろさき むねひろ 12

## こ

小玉 武生 こだま たけお 13

小松 妙子 こまつ たえこ 18

## さ

齊藤 美恵 さいとう みえ 38

坂田 徳生 さかた とくせい 19

佐藤 智子 さとう ともこ 19

佐藤 直子 さとう なおこ 20

## し

霜山 薫 しもやま かおり 39

## す

菅原 育子 すがわら いくこ 27

鈴木 浩美 すずき ひろみ 20

鈴木 政浩 すずき まさひろ 25

## せ

関根 みぎわ せきね みぎわ 21

瀬沼 文彰 せぬま ふみあき 26

## た

大工原 慈仁 だいくばら よしひと 21

高瀬 浩 たかせ ひろし 13

高橋 幸子 たかはし さちこ 39

田辺 忠史 たなべ ただし 28

## と

富樫 文予 とがし ふみよ 28

徳田 行延 とくだ こうえん 29

## な

長坂 桂子 ながさか けいこ 35

中澤 美弥 なかざわ みや 22

中谷 勇介 なかたに ゆうすけ 29

波湯 郁代 なみがた いくよ 30

## の

野口 佳一 のぐち よしかず 14

## は

服部 映里 はっとり えり 30

服部 裕美子 はっとり ゆみこ 31

馬場 哲也 ばば てつや 14

原田 瞳 はらだ ひとみ 22

## ふ

藤野 洋 ふじの ひろし 15

藤本 千尋 ふじもと ちひろ 40

## ま

松澤 祐介 まつざわ ゆうすけ 15

## み

宮島 健次 みやじま けんじ 26

## も

望月 政志 もちづき まさし 31

茂手木 明美 もてぎ あけみ 36

## や

山田 秀樹 やまだ ひでき 23

# 西武文理大学 研究シーズ集2023

2023年5月発行

発行：西武文理大学

連絡先：〒350-1336

埼玉県狭山市柏原新田311-1

西武文理大学事務局

TEL：04-2954-7575

FAX：04-2954-7511

E-mail：soumu@bunri-c.ac.jp

URL：https://www.bunri-c.ac.jp/univ/